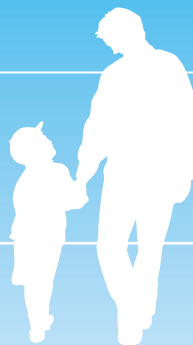


環境報告書

Environmental Report

2011



トップメッセージ

社会からの信頼に応え 持続可能な社会の形成に貢献します



社長 銭高一善

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震により、東北・関東地方を中心に甚大な被害が発生しました。多くの亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、いまだに避難生活を余儀なくされておられる被災者の方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

この大震災により、社会資本をはじめ企業の生産活動や市民の生活基盤に甚大な影響が生じました。震災からの早期復旧が、東日本のみならず、わが国の経済の立ち直りに不可欠であり、官民を挙げての取り組みが全力で進められておりますが、国土の基盤整備の一翼を担う企業として、被災地の一日も早い復興を願い、全力でご支援させていただきます。

持続可能な社会の形成に向けて

当社は、お客様、株主、ビジネスパートナー、地域社会の方々、そして社員と数多くのステークホルダーの支えにより、本年度創業306年、創立124年を迎えることが出来ました。

今後も全役職員がコンプライアンスを徹底し、「社是」「経営理念」に則り、社内のコーポレート・ガバナンスを強化し、企業としての社会的責任を果たしてまいります。

地球温暖化防止と自然環境との共存

当社は、設計から、施工、運用、更新、解体に至るまでの建造物のライフサイクルにおけるCO₂削減に積極的に取り組み、自然環境との共存を重視した安全な暮らしに貢献する「ものづくり」をめざしています。

環境に配慮した設計、施工等への取り組み

当社は、「大地への愛 人間への愛」のスローガンのもと、社員一同が建設産業の一員として、建設を通じて環境保全に取り組むことを環境方針の基本理念とし、全社で環境マネジメントシステムに沿った保全活動を展開しています。地中熱や風力、太陽光などの再生可能エネルギーの利用、自然採光、自然通風の利用による環境負荷の低減など、最新技術を駆使した設計、施工により、環境を保全し、社会に貢献しています。

品質・安全への取り組み

当社の品質管理は、品質マネジメントシステムを基に作業所における各種品質検査、全支社店工事部署による品質パトロール等、本社・支社店の関係部署が一体となって作業所を支援し、問題の早期発見、早期解決により、ミスやトラブルを防

止し、お客様から確実な信頼を得られる品質の建造物を提供しています。

また、安全衛生管理につきましては、労働安全衛生マネジメントシステムを基に、災害防止に向けた重点施策を着実に実行し、協力会社の方々と一体となって全社を挙げて災害撲滅に取り組んでいます。

環境活動の取り組み

当社は、すべての作業所において、協力会社の方々と一体となり、建設副産物発生抑制、リサイクルの推進等、ゼロエミッション活動に取り組んでいます。また、環境パトロールを実施し、改善指導を徹底し、工事完了までゼロエミッション活動を継続して行っています。

本報告書は、当社における2010年度の環境活動の取り組みと2011年度の取り組み方針をまとめました。

今後とも皆様方の信頼にお応えし、環境保全活動に貢献すべく積極的に取り組む所存であります。今後とも当社の環境活動に、より一層のご理解を頂き、忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

2011年 9月

社 是

- 一、 信用 第 一
- 一、 堅 実 経 営
- 一、 積 極 的 精 神
- 一、 和 親 協 同

経営理念

- 一、 社会から認められ社会から求められる企業として永遠に発展する
- 一、 進取の精神を発揮し国際企業として世界に躍進する
- 一、 人材を育成し自己の向上をすすめる活力ある企業として繁栄する

環境方針

基本理念

私たちは、「大地への愛、人間への愛」の心のもと、社会から認められ社会から求められる企業として、建設活動を通じ、環境保全に取り組みます。

基本方針

1. 事業活動の全段階で環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で利害関係者の見解に配慮します。
2. 環境目的および環境目標を設定し、定期的に見直すことにより環境保全活動の継続的改善および汚染の予防を実行します。
3. 環境に関連する法規制および同意するその他の要求事項を順守します。
4. 資源の有効活用と廃棄物の発生抑制に努め、環境保全を重視した設計および技術開発を行います。
5. 全役職員および当社の活動に関連する人々に環境方針を周知します。
6. 環境方針は、開示します。

東日本大震災への対応について

2011年3月11日14時46分に発生しました東北地方太平洋沖地震への対応について、地震発生から3月末までの初動について報告致します。

地震発生直後の主な動き

当社は、地震発生直後、直ちに東北支店に現地対策本部を、東京本社に本社災害対策本部を設置し、社員および家族の安否確認、ならびに作業所や当社施工物件の被災状況の情報収集を開始しました。

技術者の派遣

12日午前、東京本社から東北支店へ支援部隊第1陣が、翌13日早朝には支援部隊第2陣が、夜には第3陣が出発し、東北支店社員が既に開始していたお客様の被災状況確認を本格化させました。

また、13日、東北支店との通信回線復旧に伴い、本社災害対策本部と現地対策本部をテレビ会議システムによりつなぎ、対策会議を開始しました。



本社災害対策本部（東京）



東北支店 現地対策本部

支援物資の搬送

東北支店からの要請を受け、水、食料をはじめ毛布、燃料、発電機、簡易トイレなど支援物資の搬送を地震発生翌日より開始致しました。

その後も被災地のニーズの変化に合わせてブルーシート、土嚢袋などを搬送し、復旧を支援する活動を行いました。



支援物資積込（東京本社）



CONTENTS



トップメッセージ	P-1
東日本大震災への対応について	3
2010 Highlight	P-5
地球環境と共生するエコキャンパス	5
緑に覆われた地下図書館と開放感あふれる学習スペース	7
緑につつまれた人材育成の拠点	9
狭隘路 <small>きょうがい</small> を改善し、地域の活性化に寄与する	11
交通渋滞の緩和と街のさらなる発展に貢献	13
アフリカの食糧不足緩和をめざして	15
環境への取り組み	P-17
環境に関する全社的取り組み	17
環境性能を重視した設計	19
環境負荷を低減する技術	20
環境に配慮した施工	21
環境経営	23
マテリアルフロー	25
オフィスにおける取り組み	27
環境会計	28
社会への取り組み	P-29
社会貢献活動	29
地域とのコミュニケーション	31
社会から認められ求められる企業であるために	33
お客様の満足を得られる品質は安全で衛生的な職場環境から	35
誰もが自分らしく、いきいきと働くために	36
外部表彰	P-37
アンケート結果	P-38

環境性能に優れた
建物を造る

慶應義塾大学 三田キャンパス南校舎

Construction Data

施工場所：東京都港区
事業主：学校法人 慶應義塾
設計・監理：株式会社 日建設計



地球環境と共生するエコキャンパス

慶應義塾大学 三田キャンパス南校舎は、慶應義塾創立150年記念事業の一環として、三田キャンパスを21世紀の学術・文化を先導するにふさわしいキャンパスにするために計画された建物です。旧校舎のファサードを継承する外装計画として街並みに配慮し、機能を東西で分けた明快な建物計画とすることで、安全でフレキシブルな教育環境・充実した交流環境を実現しました。

三田キャンパス正門に面した南校舎は、街とキャンパスのつながりを意識したゲート状の建物で、680人を収容できる南校舎ホールをはじめ、200人を収容できる大教室や、学生ラウンジ、学生食堂、PCラウンジなどが備えられています。建物の中央の吹抜けには、正門から中庭に抜けるキャンパスゲートが設置され、歴史と伝統ある大学の入り口にふさわしいアプローチを形成しています。

建物中央には吹抜け（エコポイド）があり、階段室と併せて煙突効果による自然通風を促します。教室の廊下側には欄間を設置し、教室にも自然の風を通します。エコポイドからは自然光も入ります。

教室の窓には、日射を遮るための深い庇があり、室内に間接光を取り込むライトシールドが設置されています。



建物配置図



正門付近
正門付近の既存樹木を保護しながら施工を行いました。

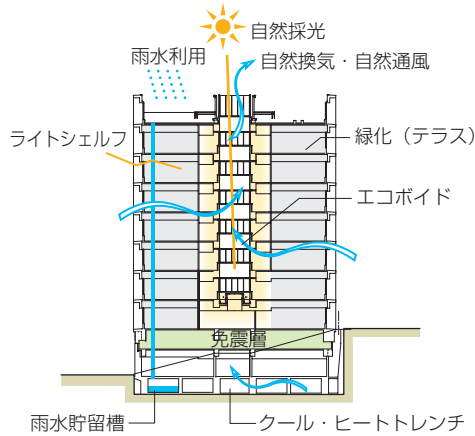


中庭
緑豊かな中庭。キャンパス内の緑のネットワークを意識した配置計画となっています。



ライトシェルフ

自然光を天井に反射させ、柔らかな間接光を室内に導入します。



7階 北テラス

テラスを緑化することで断熱性を高めるとともに、開放的なリフレッシュスペースを形成します。



鉛ダンパー

積層ゴム38基、鋼製ダンパー6基、鉛ダンパー28基を備えた中間階免震構造。



エコポイド

明るい採光を建物内に導くとともに、煙突効果による自然通風を促します。



7階 ラウンジ

南北にテラスを臨む学生ラウンジ。グループ学習室に隣接しており、交流の場として利用されます。

地下ピットには雨水貯留槽を設けて屋上から取り込んだ雨水を溜め、トイレの洗浄水や植栽への散水に利用します。また、地下ピットのクール・ヒートトレンチからの地中熱を利用して空調負荷を低減します。

三田キャンパスは正門と中庭で約6.6mの高低差があり、これを活かしてその部分に免震層を設けた中間階免震構造を採用しています。免震構造とすることで、免震層より上部の階では耐力壁や柱断面を小さく

できます。また、高度な安全性を確保できます。

キャンパス敷地内には、高木の既存樹木が多数あり、樹木を保護しながら動線を確保する難しい施工となりました。



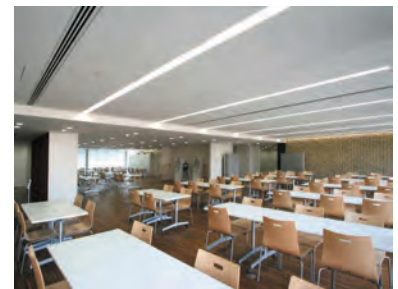
2階 200人教室

校舎内に2部屋ある大教室。それぞれ約200人を収容できます。



3階「社中交歓 萬來舎」

教職員、OB向けラウンジ。可動間仕切で部屋の広さをフレキシブルに調整できます。



4階「ザ・カフェテリア」

中庭の眺望が得られる明るく開放的な学生食堂です。

作業所ボイス 大学のシンボルをつくるやりがい



鈴木 博文
(東京建築支店)

当建物は、慶應義塾大学三田キャンパス正面の大学の顔となる建物で、学校関係者をはじめ卒業生や近隣の方々からも非常に注目される工事でした。大学構内での工事のため、学生や来校者の安全確保を第一優先としました。大学は、試験、学園祭など色々な行事が目白押しで、工程管理には大変苦労しました。

構造的にはホールやラウンジ、教室といった多様な用途に合わせ、RC、S、SRC造が複雑に混在しており、内装も非常に凝った技術的にも大変難しい建物でした。特にシースルーエレベーターはガラス張りの上、免震構造のため建物から吊下げる形となり、鉄骨建てる方法と精度には非常に気を使い管理しました。その分、完成時には注目を集め、達成感を実感できました。

環境性能に優れた
建物を造る



東京工業大学附属図書館

Construction Data

施工場所：東京都目黒区大岡山
 発注者：国立大学法人 東京工業大学
 設計・監理：国立大学法人 東京工業大学
 株式会社 佐藤総合計画



緑に覆われた地下図書館と開放感あふれる学習スペース

東京工業大学附属図書館は、正門から本館前のプロムナードへとつながるアイ・ストップに位置し、その機能的かつ斬新な形状から、キャンパスの新しいシンボルとなりました。新図書館は、図書館機能の高度化や耐震性の確保、環境負荷の低減などの目的から、建物の大部分を地下に設けています。地上部は、野草に覆われた「緑の丘」とエントランス広場、三角形の学習棟で構成されています。

斬新な形状の学習棟は、開放感のある明るい学習スペースとなっており、グループ学習にも活用できます。外装は、断熱性に優れたLow-Eガラスと太陽光発電パネルを組み込んだ鉛直ルーバーに覆われており、

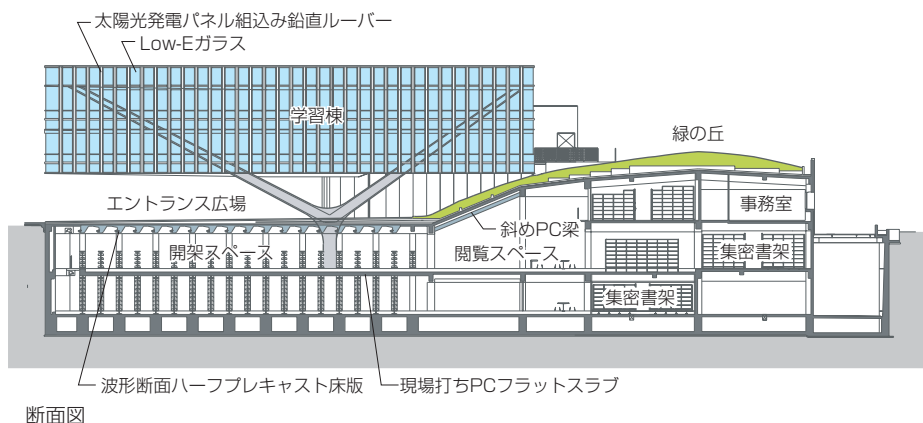
発電と同時に熱負荷を低減しています。また、屋上にも太陽光パネルを一面に設置し、施設内で使用する電力の一部をまかなっています。

地下1階は、開架スペースやブラウジングコーナーがあり、情報検索端末や図書貸出機などを備えた図書館の中心部となっています。緑の丘の斜面に沿った斜めの天井には、三角形のトップライトがあり、自然光が射し込む閲覧スペースとなっています。開架スペースの天井は、1階床の波形ハーフプレキャスト床版がそのまま表われる仕上げで、間接照明を組み込んでおり、反射光が波形天井を照らす落ち着いた雰囲気の中、自由に本を探ることができます。



地下1階 トップライト

三角形のトップライトの下は三角形の大テーブルが置かれ、柔らかな自然光が射し込みます。



地下1階 波形天井

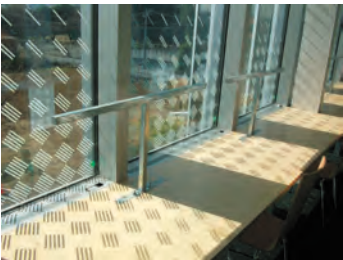
波形ハーフプレキャスト床版表わし仕上げの天井。間接照明が天井に反射して適度な照度を保つ、落ち着いた雰囲気の開架スペース。



緑の丘
地下図書館の屋上でもある人工の丘。桜並木のプロムナードとの連続性に配慮し、桜を植栽しました。



太陽光パネル組込型鉛直ルーバー
太陽光発電パネルを組み込んだ鉛直ルーバーで建物を覆っています。

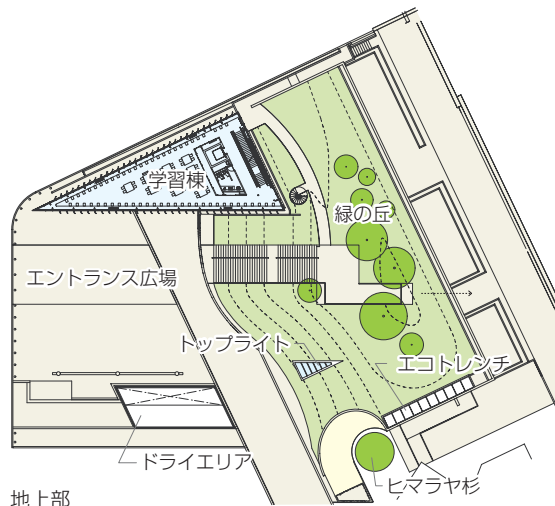


自然通風
学習棟の窓周り。サッシのスリットを通じて自然な通風が得られます。

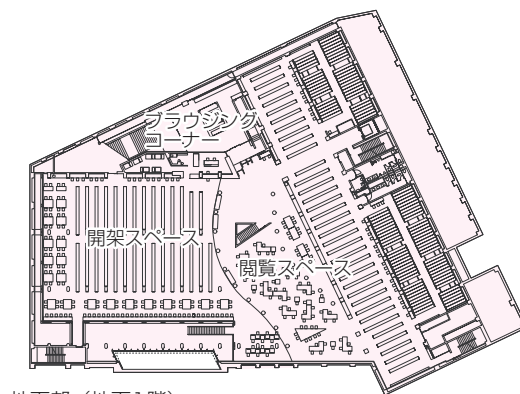
地下2階は、約2000種類の新着雑誌を収蔵するスペースや、免震機構を備えた電動集密書架を設置しています。

緑の丘は、本館前の桜並木との連続性をもたせるため桜を植栽しています。丘を形成する斜面は、生態系を考慮し、キャンパス周辺から採取した野草の種子による植栽を施しました。敷地内の既存樹木（ヒマラヤ杉）の保存を優先した施工計画を立て、地下躯体の外壁を利用して根を保護しました。

学習棟の鉄骨建方に先立ち、仮支柱を設置しました。全ての鉄骨が組み上がり、接



地上部



地下部（地下1階）



緑の丘への階段
斜めPC梁の上部分となる斜面には、近隣から採取した在来種の種子による植栽を行いました。



ヒマラヤ杉（既存樹木）
キャンパスの歴史と共に樹齢を重ねてきたヒマラヤ杉を地下躯体の外壁で保護しました。



既存樹木の保護施工中



完成

合や溶接が終了した後、仮支柱をジャッキダウンすることで、高い精度を確保しました。床コンクリートやカーテンウォール、その

他仕上げ材の荷重に対しては、事前にシミュレーションを行い、荷重の増加により発生する変形の検証を行いました。



Y字鉄骨の建方状況



学習棟全景



長谷川 茉莉
(東京建築支店)

作業所ボイス 大学のシンボルとなる図書館の創造

大学構内での工事にあたり、周囲を通行する学生や近隣住民の方々への安全確保に特に配慮しました。工事中の囲いの一部を透明パネルにし、現場の中の様子を見えるようにしたところ、現場の作業について質問を受ける機会が多くなりました。

地下工事の波形PC床版やアンボンドスラブ、Y字型の鉄骨建方など難しい施工が多く、入社して初めての現場作業は、わからないことだらけでしたが、先輩方に教わりながら品質や施工精度の管理を行いました。特に波形PC床版の据え付けがすべて完了したときは、その美しさに感動しました。

環境性能に優れた
建物を造る

ブリヂストン グローバル研修センター

Construction Data

施工場所：東京都港区南麻布
事業主：株式会社 ブリヂストン
設計・監理：株式会社 日本設計



緑につつまれた人材育成の拠点

ブリヂストン グローバル研修センターは、研修を受ける社員が、原石から宝石へと成長していくという思いを込めた「宝石の原石」をデザイン・コンセプトとする研修施設です。

建物は、知的生産性を高める機能的な研修ゾーンと、自然採光あふれる緑豊かなリフレッシュゾーンで構成され、シャープな輪郭と適度な透過性を持つ外装デザインが美しい空間を創出しています。

施設の核となる研修ゾーンは、研修室や国際会議場、ホールがあり、それを取り囲むようにリフレッシュゾーンが配置されています。敷地周辺と各階のテラスにはボリュームのある緑化スペースを設け、都心でありながら四季の風を感じることができます。

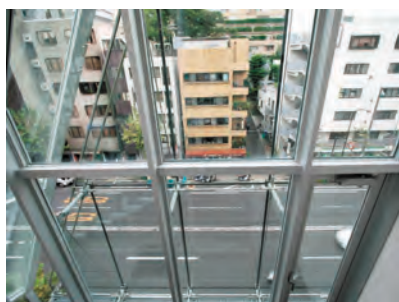
交通量の多い外苑西通りに面した建物の東面は、ガラスカーテンウォールによるダブルスキン構造で、自然通風を促すと同時に通りの喧騒を遮断しています。

外周部のリフレッシュゾーンには、空気の汚れや乾燥がない放射パネルによる空調システムを採用しています。また、換気用スリットの入った方立てを配置し、内・外気温の観測により自動運転する換気システムを採用しています。これらの空調と自然換気を組み合わせることで、敢えて空調の温度ムラを作り、研修ゾーンとリフレッシュゾーンを体感で区別できるメリハリのある空間としています。



1階ホワイエ

自然光あふれる開放的なホワイエ。研修ゾーンを取り囲むように配置しています。



東面・ダブルスキン

外苑西通りに面した東面。ガラスカーテンウォールによるダブルスキン構造を採用しています。



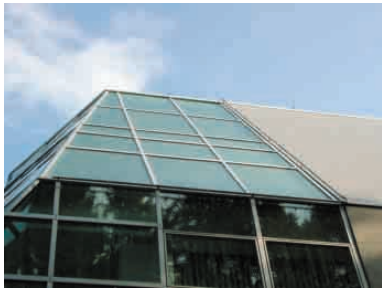
リフレッシュゾーン

各階のホワイエはリフレッシュゾーンとして利用します。ITカウンターはスマトラ島ブリヂストン農園のラバーウッドを使用しています。



輻射冷暖房システム

パネルに冷温水を循環させ、輻射により空調を行うシステム。エアコンの運転音や風がなく、清浄な空気を保ちます。



壁面散水気化冷却システム

水の気化熱を利用して壁や周辺の温度を下げる散水気化冷却システム。雨水を再利用しています。



太陽光発電パネル

屋上に設置された太陽光発電パネル。発電能力は7.0kW。



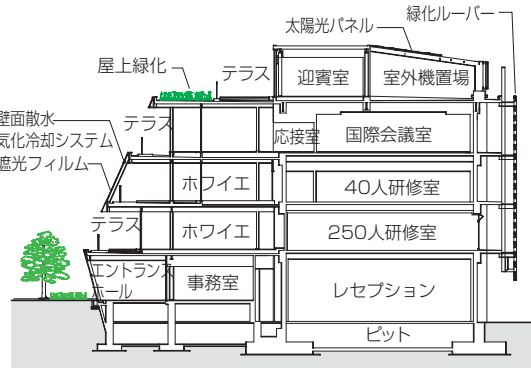
見える化モニター

1階エントランスに発電量を表示し、来館者の環境意識向上に役立てます。



緑化スペース

2階～5階の各階に設置された緑化スペース。建物全体の緑化総面積は133m²、主に中低木を植栽しています。



自然換気システム

自然換気用スリット（中央部分のメッシュ）のついた高機能サッシを使用しています。

建物西面には雨水を利用した壁面散水気化冷却システムを、南面には壁面緑化ルーバーを設置し、外皮からの熱負荷を低減することで空調負荷を低減します。

屋根面には7.0kWの太陽光パネルを設置し、

施設内で使用するの電力の一部をまかなっています。また、発電量を1階エントランスにリアルタイムで表示し、来館者の環境意識向上に役立てています。



テラス

2階から5階の各所に設けられたウッドデッキ敷きのテラス。



南面・壁面緑化ルーバー

プランターボックスを設置した水平ルーバー。植物の根元にパイプがあり、自動で灌水します。



東面外観

外苑西通りに面した東面。宝石のような透明感のある外観は、爽やかで美しいはずみです。



鍵市 祥
(東京建築支店)

作業所ボイス 最先端の環境技術を備えた先進的な建物の施工

初めてこの建物のパースを見た時、正直、目を疑うほどのインパクトを受けました。図面をしっかり理解しなければ手も足も出せないし、建物で最も重要な、漏水のない建築を意識しながら2週間図面をにらみ続けました。

先進的な建築デザインは非常に難しい納まりばかりで工事は困難を極め、大変苦労しましたが、作業所全員が設計者の意図を理解し、一丸となって取り組み、無事に完成することができました。

様々な環境技術や建築デザインが盛り込まれたこのプロジェクトで近未来の建物の一部を垣間見た気がします。

利便性に優れた
都市基盤を築く

奈良・夢翔大橋

Construction Data

施工場所：奈良県五條市大塔町
発注者：奈良県
橋長：290m
PC2径間連続箱桁橋・PC3径間連続エクストラードズド橋

きょうあい

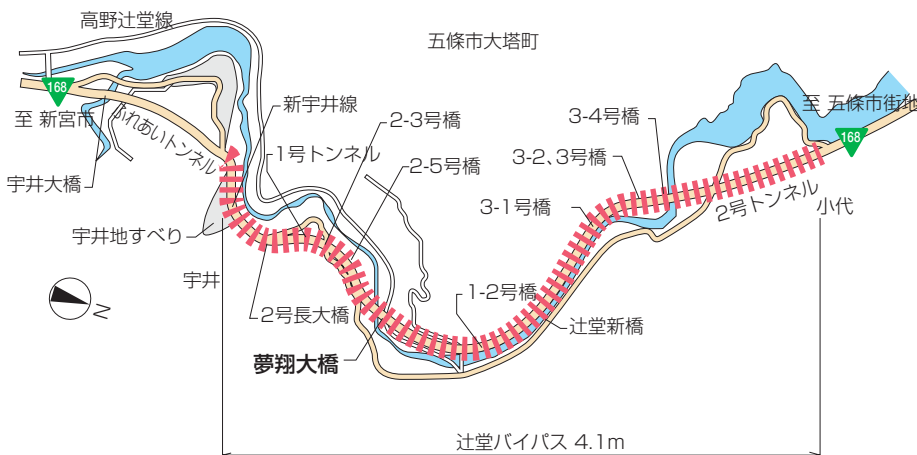
狭隘路を改善し、地域の活性化に寄与する

奈良・夢翔大橋は、国道168号線辻堂バイパス整備事業の一環として、奈良県五條市大塔町に建設された、PC2径間連続箱桁橋およびPC3径間連続エクストラードズドラーメン箱桁橋からなる橋梁群です。

辻堂集落内の国道168号線は幅員が狭く曲がりくねった線形をしており、台風などの異常気象時には通行規制が発令されていました。辻堂バイパス整備事業は、こうした狭隘路の改善や、五條市吉野地域の活性化、観光や林業の振興を目的として、バイパスを整備するものです。

夢翔大橋（3径間連続エクストラードズドラーメン箱桁橋区間）は、最大張出し長が片側98.5mと、我が国の同形式の橋梁の中では有数の規模を誇ります。主塔は、曲線の道路線形に対応しつつ、建築限界を確保するためY字形に開いた形状をしています。主桁および主塔部分は高強度コンクリートを採用することで徹底的に軽量化を図ったスレンダーな構造とし、熊野川を渡河するランドマークとして耐震性と意匠性を両立させた構造美を実現し、平成22年度プレストレストコンクリート技術協会賞（作品部門）を受賞しています。

豊かな自然に恵まれた五條市での工事にあたり、環境に配慮した施工を積極的に行



辻堂バイパス全体図



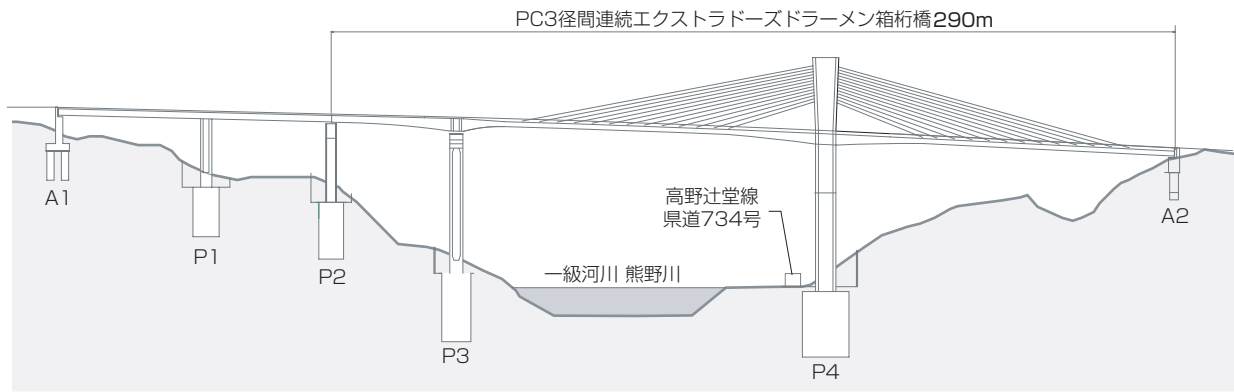
P4橋脚 主塔の施工

Y字形の主塔の施工。斜材の定着は経済性、施工性に優れた鋼殻構造を採用しています。



P4橋脚

真下から見たP4橋脚。Y字形の主塔を持つスレンダーな橋脚は、構造の安全性を確保しつつ、地形の改変を最低限に抑えています。



落下防護した移動作業車
P4橋脚からの張出し施工。熊野川への環境配慮から、片側の移動作業車（向かって左）に落下防護を設置しました。



電動バックホウ
A2橋台の深礎杭掘削は、CO₂排出量を低減するため電動バックホウを使用しました。



台風時の災害復旧
台風時に県道をふさいだ近隣工区の障害物を一晩で撤去しました。

いました。熊野川を跨ぐ側径間の張出し施工では、汚濁水や小物の落下を防ぐために移動作業車の作業床を防災シートと囲い枠で隙間なく防護して施工しました。

また、P2橋台の深礎杭掘削にあたっては、電動バックホウを用いてCO₂排出量の低減に努めました。

2009年11月11日に台風18号が紀伊半島を襲った際、近隣工区の足場が倒れて県道をふさぎましたが、夜を徹して復旧にあたり、翌日には県道の交通を復旧させ、地元の方々に感謝して頂きました。

そのほか、作業所では近隣地域とのコミュニケーションを目的とし、様々な活動を行いました。

近隣には、小・中学校の併設校舎に児童・生徒16名が学ぶの五條市立大塔小・中学校があり、リングブルを集めて車椅子を寄付

する活動をしていました。この活動を支援するため、作業所で集めたリングブル2kgを寄付しました。

また、生徒の方々を対象とした現場見学会を実施し、張出施工中の橋面上を先端まで行き、橋梁施工の方法や仕組みを説明し



リングブルの寄付
作業所で集めたリングブル2kgを近隣の学校に寄付しました。

ました。工事への理解を得るとともに、参加した生徒の方々に建設業への興味を持ってもらうことができました。



見学会
近隣の中学校の生徒12名と教員6名を招いて見学会を実施しました。



細野 順平
(大阪支社)

作業所ボイス 厳しい自然環境を乗り越えて

本工事は、熊野川沿岸の急峻かつ狭い地形にエクストラード橋を架橋するものでした。技術的にも難しい工事でしたが、それ以上に、自然環境が厳しい工事でした。冬は雪と氷の世界で、極寒の地でした。また、地すべり、土砂崩れが多く、通行止めで資材が届かなかったり、職人さんが現場に辿り着かないこともありました。そのような厳しい自然環境を乗り越えて、今後の地域の活性化に繋がる工事を完成することができたことを誇りに思います。

利便性に優れた
都市基盤を築く

高速度鉄道第6号線ほら貝工区

Construction Data

施工場所：愛知県名古屋市緑区相川～桃山
発注者：名古屋市交通局
施工延長：1,207m×2本（上下線）
6,900mm泥土圧シールド工法（単線並列）



交通渋滞の緩和と街のさらなる発展に貢献

高速度鉄道第6号線ほら貝工区は、名古屋地下鉄桜通線の延伸工事（野並駅～徳重駅）のうち、相生山駅から神沢駅までの延長1,207mのトンネル部を泥土圧式シールド工法により築造するとともに、相生山駅と神沢駅のプラットホームを築造する工事です。

桜通線は、これまで中村区役所駅～野並駅間の14.9kmを営業運転していましたが、今回の工事で4.1kmを延伸し、2011年3月27日に全線が開通しました。

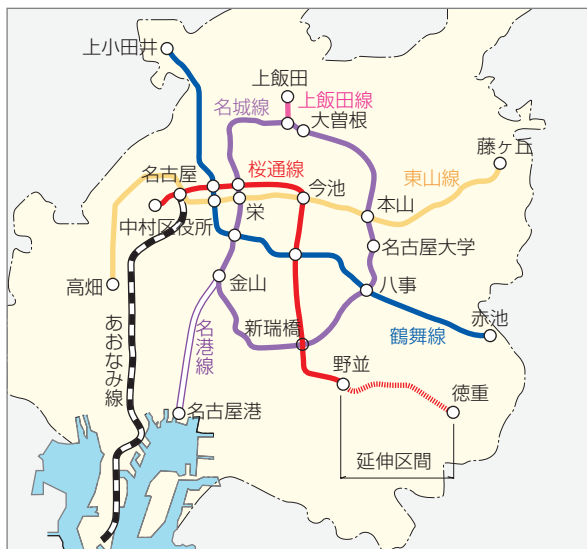
延伸された野並駅から徳重駅までの沿線

周辺は、大規模な住宅団地があり、多くの土地区画整理事業が行われています。桜通線の延伸により名古屋駅～徳重駅間は35分で結ばれ、これまでバスを使っていた多くの利用客の通勤・通学の新しい足となりました。交通渋滞の緩和にも大きく貢献しています。

ほら貝工区は、土質条件や周辺への影響などを総合的に検討し、泥土圧式シールド

工法を採用しました。シールド機は、外径6.9m、機長8.43m、総重量360tで、180個のカッタービットを備えたものです。

工事は、狭隘な道路下で行われました。相生山駅立坑でシールド機を組み立てて発進し、神沢駅立坑で180度回転させ、再び相生山立坑まで戻ってくる工程です。地盤は、軟弱な粘土層や砂層、固く固結した粘土層が複雑に入り組んだ難しいものでした。



名古屋地下鉄路線図



相生山駅立坑
左は1番線シールドの到達状況、右は2番線軌道を工事中。



桜通線延伸路線図

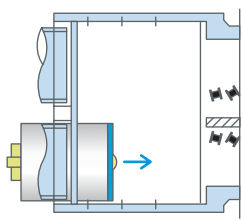
神沢駅立坑でのUターンには、シールド機を空気圧によって浮上させ、摩擦力を低減して回転させるエアークャスター工法を採用しました。エアークャスター工法は、到達したシールド機の下にキャスターバッグを配置し、圧力を持った空気を送りこんでバッグを膨張させて、シールド機を浮かせ、ワイヤーを使って回転させるものです。シールド機の回転はスムーズに行われ、約1



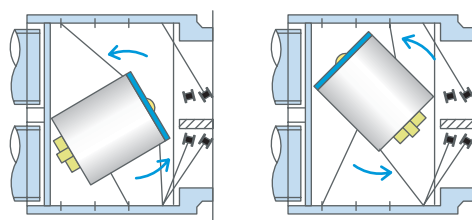
神沢駅立坑へ到達
神沢駅立坑でのシールド機の到達状況。180度回転し、右側の発進部から再発進します。



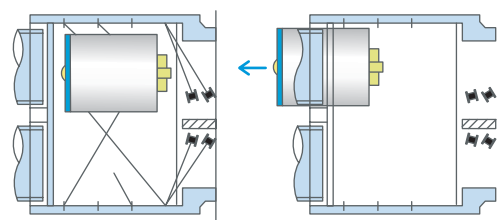
エアークャスター
シールド機の下にキャスターバッグを設置した状況。ワイヤーを使って回転させます。



シールド機が神沢駅立坑へ到達



エアークャスター工法によりシールド機を180度回転



相生山駅へ向けて再発進

時間で完了しました。また、復路の掘進に備えてカッタービットの交換も行いました。

シールド機から排出される掘削土は、立坑に設置した土砂ホッパーまで配管を用いて圧送されます。このときの圧送音を低減するため、地上部の配管は埋設し、坑内の配管にはサイレントダンパーという消音装置を設置しました。また、立坑部を防音シートで覆って音漏れを低減し、周辺環境に配慮しました。



サイレントダンパー
掘削土砂圧送時の騒音を防止するための消音装置。



防音ハウス
相生山立坑の防音ハウス。

開通を目前にした2011年2月20日、開通イベントとしてトンネルウォークが名古屋市交通局の主催で催されました。スタート地点の相生山駅には名古屋市交通局のマスコットキャラクター「ハッチー」が参加者をお迎えしました。抽選で選ばれた700人の参加者は、相生山駅から徳重駅までの約2.2kmを約1時間かけて歩きました。



トンネルウォークに訪れた人々
開通記念イベントのトンネルウォーク。当日は相生山駅から出発しました。



トンネルウォークの様子
いざ、坑内へ。トンネルウォークは700人の募集に対して1万人以上の応募がありました。



高橋 龍裕
(名古屋支店)

作業所ボイス 市民の期待に応えるべく

本工事は、人口が急増する名古屋の住宅密集地における主要幹線道路下での工事でした。掘進中は、「今日の辺りを掘ってるの?」「いつの間にこんな所まで来たの?」とヘルメット姿の私たちを見かけた街の方々から声をかけられることがしばしばでした。ある時、新聞の市民投書欄に「夜中まで市民のために工事をしてくれてありがとう」とのコメントが掲載され、作業所関係者一同の励みになりました。地下鉄工事は、街を変えるプロジェクト。市民の皆さんのご協力に支えられ、無事に開通することができました。

ウガンダ・稲研究・研修センター

Construction Data

施工場所：ウガンダ共和国ワキソ県ナムロンゲ
 事業主：ウガンダ共和国 農業水産畜産省 国立農業研究機構
 設計・監理：NTCインターナショナル株式会社



アフリカの食糧不足緩和をめざして

アフリカの真珠とも呼ばれるウガンダ共和国は、アフリカ大陸東部に位置する人口約3,165万人の内陸国です。世界3番目の面積を持つビクトリア湖に面し、水産業が盛んで、コーヒー・紅茶・綿花などの農業、銅・コバルトを産する鉱業、繊維・セメントなどの工業を主要産業としています。1962年の独立以来、内戦による混乱の時期もありましたが、現在は政権も安定し、世界銀行や援助国の支援の下で経済発展に取り組んでいます。

ウガンダ政府は、貧困撲滅計画の一環として、農業の近代化と強化に取り組んでおり、近年稲作の振興に力を注いでいます。アジア稲とアフリカ稲を掛け合わせ、乾燥した土地でも育つよう改良された新品種ネリカ米 (New Rice for Africa : NERICA) の研究・普及に関する人材育成・普及体制の整備を目的に、技術協力プロジェクト「ネリカ米振興計画」と「稲研究・研修センター建設計画」を日本政府に要請、これを受けて日本政府は政府開発援助 (ODA) を決定し、当社が建設に携わりました。

ネリカ米は、生育期間が短い、乾燥に強い、病害虫に対する抵抗力が強いなどの特長が

あり、在来品種に比べて高い収穫量が期待できます。現在は畑地向け (陸稲) が中心ですが、水田向けの品種もあります。

ウガンダではトウモロコシの粉を練ったポシヨ、調理用バナナを蒸し焼きにしたマトケが主食で、米は副食として食されていますが、近年都市部を中心に米食が増えつつあります。ウガンダでの稲作の振興は、ウガンダ国内だけでなく、広くアフリカの食糧不足の緩和に貢献することが期待されています。

建設地は、首都カンパラから北へ20km、ウガンダ国立農作物試験場内でした。この地は、英国領の1940年に第2綿花試験栽



カンムリヅルのつがい

国旗、国章にも描かれているウガンダの国鳥。着工時、このつがいは一旦逃げてしまいましたが、圃場の完成後に戻ってきました。



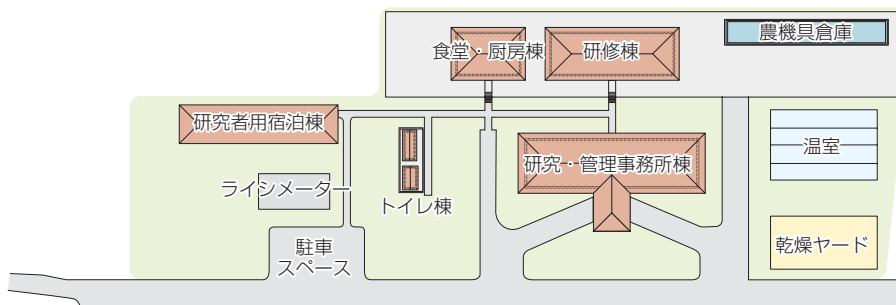
位置

東アフリカ高原、ナイル川の始まるビクトリア湖に面しています。赤道直下ながら標高が高いため、平均気温は21~25℃程度。



ネリカ米の試験圃場

ネリカ米には現在18の品種があり、写真は Nerica6の試験圃場。隣の圃場は別な品種が栽培されています。ウガンダの稲作は、基本的に三期作。中には五期作の田んぼもあります。



稲研究・研修センター（メインサイト）配置図

研究者の宿泊施設や管理棟を備えた、施設の核となる研究・研修センター。この他に脱穀などを行うワークショップ棟と灌漑施設（試験圃場）を整備しました。



試験圃場の施工
既存河川の流路を整備します。



ワークショップ棟スラブ施工
直押しコンクリート仕上げの施工が雨季と重なったため、屋根工事後に実施しました。



研究・管理棟施工
屋根仕上げは折板葺の上にセメント瓦葺で、現地のメンテナンス状況を考慮した構造です。



研究者宿舎棟の施工
壁には吸水率の低い石器質系大板レンガを使用し、吸水による内部欠陥を防ぎました。

培場として開墾され、現在に至る歴史ある土地です。工事は、研究所、脱穀精米・農機具修理施設のほか、ネリカ栽培研究用の灌漑施設を備えた試験圃場2ヘクタールを整備しました。

2011年11月頃には新たなネリカ普及5ヶ年計画がスタートする予定です。このプログラムでは、アフリカ各国の稲研究・普及を行っているグループが当地に宿泊し、研究とトレーニングを行います。ウガンダ国内だけでなく、周辺諸国から稲作希望者を多く受け入れ、普及が進められる予定となっています。

アフリカ大陸の特に東ウガンダ地区は、東アフリカ共同体や南スーダンの独立に代表されるように経済発展や地域変化の激しい地域です。こうした中、稲作・米食の普及は、経済発展に伴う食糧不足や労働問題の解消に大きく寄与します。

また、アフリカ大陸の飢餓、貧困、紛争問題地域は概ね稲作が難しいため、ウガンダのような農業国が率先して米の収穫量を増やし、周辺諸国に輸出できるようになることで、アフリカ全土の食糧不足が緩和されると期待されています。

こうした活動の拠点となる稲研究・研修

センター建設に当社が参画できたことは、未来につながる社会貢献となるでしょう。



竣工式
ホーブ農業水産畜産大臣（当時）他ウガンダ政府関係者、加藤大使（当時）、関JICA事務所長他日本政府関係者が多数出席し、引き渡しが行われました。



富田 健二（国際支店）

作業所ボイス アフリカの食糧不足対策に貢献

圃場整備工事については、地元の雇用対策支援を兼ねて主に近隣の農民の方々が工事に携わりました。2010年2月、既存水路の切り替えを人力掘削により開始し、排水路の成形、田圃の造成、コンクリート用水路、管理農道を建設し、同年8月、全ての工事を終わりました。

建設には全くの素人である農民の方々に粘り強く指導を繰り返しながらの施工は困難を伴いましたが、現在ではJICA（国際協力機構）のプロジェクトに引き継がれ、試験圃場が活用されています。現地の方々だけでなく、私にとっても「実りある」現場であったと非常に感慨深い思いでいっぱいです。私自身、この事業を通じてアフリカの食糧不足対策に少しでも貢献できたことを光栄に存じています。



環境への取り組み

CO₂削減という世界的な潮流の中で、エネルギー消費量の少ない建物やライフスタイルへのニーズはますます高まっています。

当社は、環境と共生する建物の計画や技術開発、施工時における環境負荷の低減はもとより、事業所と作業所においても全役職員が一丸となって環境配慮に取り組んでいます。



1. 環境に関する全社的取り組み → p.17
2. 環境性能を重視した設計 → p.19
3. 環境負荷を低減する技術 → p.20
4. 環境に配慮した施工 → p.21
5. 環境経営 → p.23
6. マテリアルフロー → p.25
7. オフィスにおける取り組み → p.27
8. 環境会計 → p.28



環境に関する全社的取り組み

意識向上 環境配慮への啓蒙看板

当社は、事務所における太陽光発電や節水・節電を始めとして、施工における環境負荷低減工法の採用やエコ素材の採用など、様々な取り組みを続けています。

こうした環境への取り組みを、これまで以上に強化するとともに、役職員の環境意識の向上を図るため、環境配慮への啓蒙看板とフラットパネルを作成し、全作業所に掲示しています。



環境配慮への啓蒙看板（北名古屋共同住宅工事）



環境配慮への啓蒙フラットパネル（川崎市中幸町3丁目再開発計画工事）

リサイクル オフィスにおけるごみの減量とリサイクルの促進

本店および大阪支社は「大阪市廃棄物の減量推進及び適正処理並びに生活環境の清潔保持に関する条例36条」に基づき、毎年実施される大阪市環境局の立入検査で「ごみ減量優良建築物」標章を授与されました。

大阪市は、市内にある延床面積1,000m²以上の建物約4,300棟について立入調査を行い、全データの偏差値から平均以上の建物に対して「優良標」を授与しています。

優良標を5年連続、または通算6回受賞した建物には環境局長による感謝状と「ごみ

減量優良建築物」標章が授与されます。環境局長表彰を受けた後、優良標を5年連続、または通算6回以上受けた建物には、大阪市長から感謝状が授与されます。

本店および大阪支社では、店内で使用していた紙コップの廃止をはじめ、ミスコピーの排除、文書の電子化など、様々な取り組みでごみの減量に努め、10年連続で優良標を授与されました。



「ごみ減量優良建築物」標章



グリーンカーテン



在来種による植栽



緑化仮囲い



グリーンカーテン



樹木の保護

省エネ 節電・節水への取り組み

本・支社店における取り組み

本店・本社をはじめ全支社店において、夏期はクールビズを実施し、エアコンの温度管理や照明器具のこまめな消灯に取り組んでいます。また、短時間の離席時にもパソコンがスタンバイ状態になるよう徹底し、消費電力のムダを省いています。

トイレやエレベータホールへの啓蒙ポスター掲示はもちろん、使用電力量、ガス量、水道量推移グラフの掲示や、社内イントラネットへの掲載により社員の意識向上を図っています。

作業所における取り組み

作業所においては、工事用照明をLED照明などの高効率型に順次切り替えているほか、仮設事務所に屋根散水システムを設置したり、植栽によるグリーンカーテンを設置するなど、様々な取り組みをしています。工事用電力の使用量を見る化し、工事のどこでどれくらいの電力を使っているかリアルタイムに把握し、節電に取り組んでいる作業所もあります。

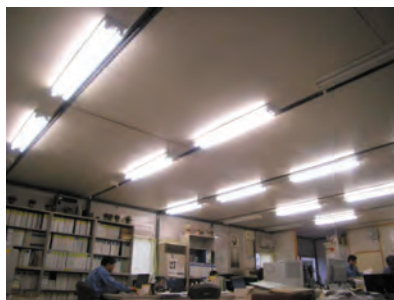
また、搬出入車のタイヤ洗浄や粉じん防止に井戸水や雨水を利用して節水に取り組んでいます。



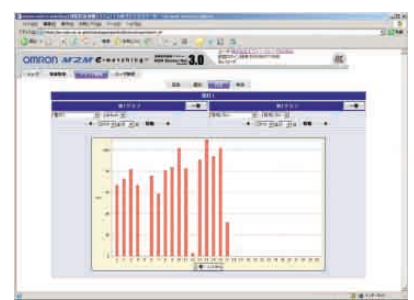
クールビズ（東京支社）



階段利用の啓蒙（大阪支社）



仮設事務所の照明をLED化
（川崎市中幸町3丁目再開発計画工事）



電力使用量を事務所でリアルタイム表示
（京都大学（南部）先端医療器機開発臨床研究センター工事）



グリーンカーテン
（新潟勤務者医療協会 下越病院工事）



屋根散水システムの設置
（川崎市中幸町3丁目再開発計画工事）



環境性能を重視した設計

設計事例 京都銀行尼崎支店 工期：2010年4月1日～2010年11月5日



京都銀行尼崎支店は、鉄筋コンクリート造2階建の銀行店舗です。国道2号線に面したファサードには伸びやかな水平ルーバーを設置し、京都銀行のキャッチフレーズである「長いお付き合い」を表現するとともに、シンプルで印象に残る外装デザインを目指しました。

また、京都銀行環境方針に基づき、水平ルーバーによる日射制御、屋上緑化、太陽光発電、太陽光を利用した灌水設備、昼光センサーによる調光照明、LED照明等を採用し、環境に配慮した店舗計画としました。



水平ルーバーとLEDサイン



高効率照明と昼光センサー



太陽光発電



発電量の見える化



屋上緑化



太陽光による自動灌水設備

設計事例 日世株式会社 南アルプス工場 工期：2010年5月1日～2011年4月30日



日世株式会社南アルプス工場は食品工場であるため、虫の侵入を一切排除することを目的に、生産施設部へのサッシをなくしたシンプルで清潔感のあるデザインを目指して計画しました。

主な環境配慮項目として、分煙システム、エコパワーメーターによる電力量の見える化、ホール・トイレにはLED照明、事務所にはサーキュレーターファンを採用するとともに、外構緑地を30%以上確保する計画としました。また、ボイラー用の燃料としてLNGを使用し、CO₂排出量を抑制しています。



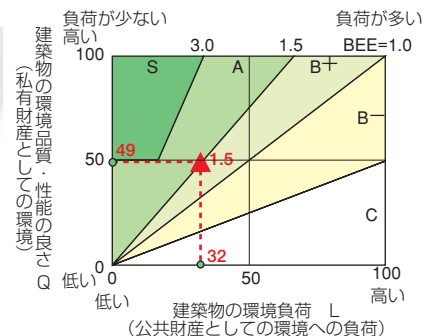
エコパワーメーターによる見える化



LED照明を採用したホール



サーキュレーターファン



CASBEEによる環境性能評価

環境負荷を低減する技術

技術開発 掘削汚泥の減容化

柱列式連続壁（SMW）工法*で発生する掘削汚泥は、セメントが混入して泥状化するため現場での処理が難しく、従来は全てが汚泥として産廃処理されていました。

本技術は、当社がこれまでに開発済みの高濃度泥水処理工法（アクアセパレート工法）の水処理工程と泥水シールド工事で実施している発生土処理システム（振動フルイ、フィルタープレス）を組み合わせることで

SMW工法による掘削汚泥の減容化を行うものです。

環状2号線地下トンネル築造工事（東京都）での実施では、産廃としての汚泥処理量を約40%削減しました。また、減容化により作業所からの搬出車両が大幅に削減でき、本処理システム全体で、約15%程度のCO₂を削減しました。



アクアセパレート工法 施工状況

*柱列式連続壁（SMW）工法とは、土とセメントスラリーを原位置で混合・攪拌し、地中に止水壁を築造する工法です。



アクアセパレートを加えて凝集した泥土



アクアセパレート工法 施工状況

技術開発 既存建物のCO₂削減提案評価システム エコマネージャー

エネルギーの大量消費の原因である建物の環境性能への要求は高まっていますが、既存の建物を最新の省エネビルに建替えることは容易ではありません。適切な改修工事によって環境性能を要求レベルまで高め、可能な限り長く使用することが環境負荷低減のためにも効果的です。

このシステムは、既存建物のエネルギー

消費状況を基に、どの程度まで改修を行うと最も効果的なのか、改修工事にかかる費用や、工事費用を何年で回収できるかなどを、当社営業マンがお客様にヒアリングしながら速やかに提案を行うものです。

当社では、このシステムを用いてお客様の建物へのCO₂削減提案を積極的に推進しています。



画面



提案状況



提案シート



環境に配慮した施工

環境保全 既存樹木の保存

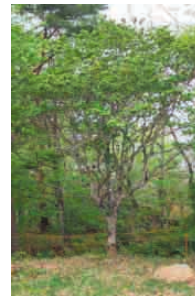
仙台市泉岳少年自然の家改築工事（宮城県）では、宮城県の県立自然公園条例に基づいた現地環境調査を行いました。その結果、絶滅危惧種などの植物群は確認されていませんが、高山植物など希少な植物が確認されたため、市民団体と協力して移植を行うとともに、継続して環境調査を行っています。

三井アウトレットパーク倉敷新築工事（岡山県）は、計画地となるチボリ公園跡地に多くの樹木が植えられていました。中には高さ8mを超える高木もあり、これらの樹木を作業範囲外に移植するため、移植用の専用重機を用いました。

仙台東西線青葉山駅工事（宮城県）では、地下鉄出入口築造にあたり、東北大学構内に植生していたケヤキ6本と桜1本を大学構内の別な場所に移植しました。



市民団体との現地調査
（仙台市泉岳少年自然の家工事）



確認された高山植物
サラサドウダン



ウダイカンバ



専用重機による樹木の運搬
（三井アウトレットパーク倉敷工事）



ケヤキの掘り取りと根巻き
（仙台東西線青葉山駅工事）

環境配慮 工事に伴う騒音・振動低減への取り組み

大分医療センター病棟解体工事（大分県）では、既存躯体の解体にあたり、騒音、振動および粉じんを抑制するため、ワイヤーソーを用いました。

十日市町一丁目分譲マンション新築工事（広島県）では、杭頭はつり時における鉄筋内側のコンクリートの剥離や鉄筋引抜きをスムーズに行うため、鉄筋組み立て時にはつり予定部分の鉄筋内側にプラスチックベニヤを設置し、はつり作業を低減しました。



ワイヤーソーによる柱の切断
（大分医療センター病棟解体工事）



杭頭鉄筋にプラスチックベニヤを取り付けて杭頭処理時のはつり作業を低減
（広島県十日市町一丁目分譲マンション新築工事）

環境保全 水質への配慮

東九州自動車道耳川橋工事（宮崎県）では、二級河川耳川の水質を保全するため、水質汚濁防止フェンスを設置しています。

東九州自動車道赤岩川橋工事（宮崎県）では、生分解性油脂を作業油とした矢板圧入機を使用しました。生分解性油脂は、万一作業油が水中や土壌に漏れても自然界に存在する細菌によって分解されるため、水質や生態系に影響を与えません。



水質汚濁防止対策
（東九州自動車道耳川橋工事）



生分解性油脂を使用した矢板圧入機
（東九州自動車道赤岩川橋工事）

創エネ 発電への取り組み

当社では、作業所における環境負荷を低減するため、仮設事務所の屋根や仮囲いに太陽光発電パネルを設置する取り組みを推進しています。また、タワークレーンが降下する際のエネルギーを利用した回生電力による発電を行っています。

発電した電力は、主に工事電力に充てるとともに、夜間防犯灯や緑化仮囲いの自動灌水装置などにも利用しています。



太陽光発電
(京都大学(南部)先端医療器機開発・臨床センター工事)



タワークレーンの回生電力利用
(川崎市中幸町3丁目再開設計画工事)



発電量の見える化
(横浜市海岸通団地建替工事)



防犯灯への利用
(広島市十日市町一丁目分譲マンション新築工事)



発電量の見える化
(川崎市中幸町3丁目再開設計画工事)

再利用 掘削汚泥の削減と再利用

海岸通団地建替え工事(神奈川県)では、山留め工事(SMW)で発生する掘削汚泥を機械的に分級処理し、液状分をセメント系混濁液材料の一部として再利用するGSS工法を採用し、産廃処分土を約35%削減しました。

京都大学(北部)物理国際先端研究棟新営工事(京都府)でも同工法を採用し、処分土を77.5%削減しました。



全景
(横浜市海岸通団地建替工事)



山留め施工状況
(京都大学(北部)物理国際先端研究棟新営工事)

環境修復 廃鉱山の緑化

東北地方や北海道で廃坑となった鉱山のり面を保全するため、緑化工事を行っています。

また、経済産業省から、廃鉱山の坑道に坑廃水を中和する際に発生する沈殿物を充填することで、坑廃水量を低減する研究を受託され、参画しました。



東北地方での施工例



北海道での施工例



環境経営

環境マネジメントシステム

ISO14001への取り組み

建設業の特徴の一つに、工事を行う場合、それぞれの周辺環境や施工方法によって、環境への負荷が異なることが挙げられます。

当社では、これらの環境負荷を予防、低減するために、5つの重点項目を柱とした環境マネジメントシステムを運用しています。

組織

会社を統轄する環境マネジメントシステム代表者（EMS代表者）および環境マネジメントシステム管理責任者（EMS管理責任者）の指導のもと、本社部門および支社店の部門環境マネジメントシステム管理責任者（部門EMS管理責任者）が統轄管理する体制がとられています。

また、中期経営計画に基づき、環境目標を展開し、月次で実践度を確認、指導しています。

作業所では、協力会社の方々と共にゼロエミッション、CO₂削減の推進および省力化に知恵を出し合い、協力して環境活動を展開しています。

監査および環境パトロール

部門EMS管理責任者による月次の実践度確認、指導に加え、本社および支社店の安全環境部署による内部監査および環境パトロールを実施し、法令の順守状況をはじめ、環境活動の実施状況について、監視、改善を行っています。

また、財団法人日本品質保証機構（JQA）の定期審査を年1回受審し、ISO14001の適合性の評価を受けています。

教育・啓蒙活動

社員に対しては、社員研修、所長会議や全店担当者会議等を通じて、環境教育を実施しています。専門性の高い環境技術や規格についても社員研修や外部講習を通じて新しい情報を取り入れています。

作業所では、協力会社作業員に新規入場者教育、朝礼などを通じて、自らの作業と環境保全活動との関連について教育し、自覚を促しています。

また、内部監査や環境パトロールで指摘された事項は、全国の作業所に水平展開し、再発防止に取り組んでいます。

社内表彰

「資源循環型社会の形成、地球環境などの環境保全に全員が創意工夫して積極的に取り組む」活動を活性化するために「環境保全活動表彰制度」を2005年9月に創設しました。

これは、環境負荷低減評価、コスト評価、独自性、優位性等の審査項目について各支社店と本社の2段階で審査し、顕著な貢献があった社員や部署、作業所を年1回表彰する制度です。

2010年度は応募件数10件のうち、優良な3件を表彰しました。

重点項目

1. 環境影響評価に基づいた部署ごとの環境目標の展開と自主監視
2. 外部審査、内部監査および環境パトロールによるシステム運用の状況と法令順守の監視
3. 教育・啓蒙活動の実施
4. 環境保全活動表彰の実施
5. マネジメントレビュー

	第三者認証機関の定期審査	本社主管による監査	環境パトロール
		内部監査	
実施者	財団法人 日本品質保証機構	安全環境部	安全環境部
実施時期	2010年6月7日 ～6月10日	2010年8月26日 ～12月10日	通年
実施部署数	39部署 5作業所	36部署	154作業所
指摘項目数	34件	152件	498件
推奨事項	0件	3件	0件
主な指導事項	1. 環境目標の見直しの不備 2. 環境法規制のチェックの不備 3. 環境配慮設計に関する教育の不備		

2010年度 社内集合教育（社員）	
教育回数	17回
延べ人数	1010人



ISO書類審査

環境影響に起因する訴訟・罰則等

2010年度は、工事に伴う環境影響に起因する訴訟・罰則はありませんでした。

マネジメントレビュー

本社部門長および支社店長が参加する会議において、環境目標の実施状況を確認し、達成状況に応じてシステムの見直し、改善を行っています。

2010年度環境活動実績と2011年度環境活動目標

「環境関連法規制の順守」、「脱温暖化社会・循環型社会への事業活動」、「地域・社会貢献活動への取り組み」について、具体的実施事項を定め、毎年数値目標を掲げ、全社一丸となって取り組

んでいます。

2010年度の環境活動目標および活動実績と、2011年度環境活動目標は以下の通りです。

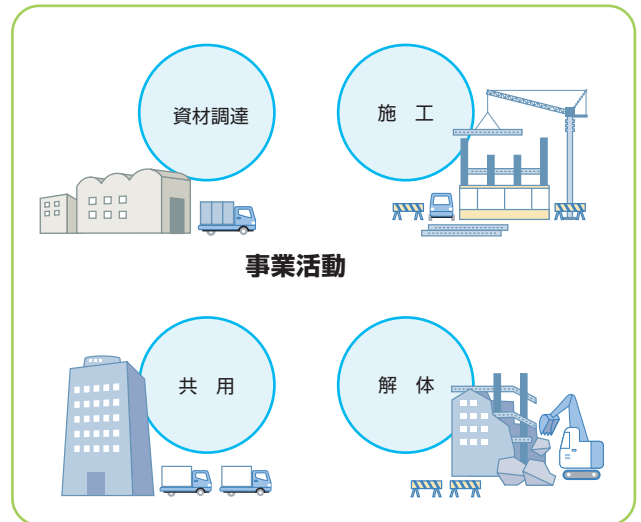
目的	具体的実施事項	2010年度環境活動目標および環境活動実績		2011年度環境活動目標
		目標	実績	
環境関連法規制の順守	環境関連事故防止 環境関連法違反による事故防止 0件 環境パトロール実施回数 1作業所年4回以上 環境パトロール指摘事項是正実施 100%	0件 4回 100%	0件 3.5回 100%	0件 4回以上 100%是正
	有害化学物質の管理の徹底 有害物質・土壌汚染等に関する処理状況の把握 PCB廃棄物に関する適正処理状況の把握	PCB保管状況の点検実施	PCBコンデンサー早期登録完了、大阪1台・東京4台・機材センター131台、低濃度調査完了（コンデンサー・安定器）、コンデンサー九州1台・東北1台、安定器東京240台・機材センター1台	PCB保管状況の日常点検実施 今年度機材センターPCBコンデンサーの40台分処分予定
	アスベスト廃棄物に関する適正処理状況の把握	不適正処理 0件 石綿に関する工事管理表による監視	不適正処理 0件	不適正処理 0件 石綿に関する工事管理表の提出確認
	土壌汚染土に関する適正処理の把握	不適正処理 0件 報告書による適正処理把握	不適正処理 0件	不適正処理 0件 報告書の提出
脱温暖化・循環型社会への事業活動の展開	オフィス業務におけるCO ₂ 排出量の削減 昼休みの消灯、退社時の部分消灯の励行、空調機の温度設定・運転時間の管理の徹底	107kg-CO ₂ /人・月	107kg-CO ₂ /人・月	107kg-CO ₂ /人・月
	全社（オフィス・作業所）におけるCO ₂ 排出量の削減 軽油使用量削減に基本事項の推進（アイドリングストップ運動、日常点検実施等）、省エネ型・排ガス対策機械器具の使用促進	14.5t-CO ₂ /億円	全社 15.6t-CO ₂ /億円 土木工事 27.5t-CO ₂ /億円 建築工事 7.7t-CO ₂ /億円	14.5t-CO ₂ /億円
	コピー用紙使用量の削減 両面コピー、裏面利用、電子媒体の利用、購入量の管理による削減活動の徹底	1197枚/人・月	1310枚/人・月	1197枚/人・月
	水道使用量の削減 無駄な水道使用の防止（止め忘れ等）	169m ³ /億円	170m ³ /億円	169m ³ /億円
	事務用品のグリーン購入率向上 事務用品購入時、グリーン購入（事務用品等）ガイドライン中の製品選定の徹底	84.1%	90.7%	91.6%
	建設資材等のグリーン調達促進 指定品目数 31品目	31品目	28品目	31品目
	環境配慮設計の推進 環境配慮設計（CASBEEを含む）の実施	100%実施 CASBEE評価済物件数/実施設計件数	15件実施提案	100%実施 CASBEE評価済物件数/実施設計件数
	環境技術開発による環境関連事業拡大 建設廃棄物の減量化、土壌浄化、自然エネルギー利用、水循環システムおよび生態系保全技術開発による事業拡大	3件	CO ₂ 削減評価システム構築 建設現場における振動騒音低減技術	3件
作業所 ゼロエミッションの実施	建設廃棄物原単位排出量の削減 （解体系廃棄物・建設汚泥除く） 4R活動（持ち込まない・削減・再利用）を推進し分別を徹底する	9.4 t/億円	全社 10.3 t/億円 土木工事 5.2 t/億円 建築工事 12.9 t/億円	9.4 t/億円
	建設廃棄物の適正処理システムの改定・運用 （電子 manifests の導入）	全作業所実施100%	100%	全作業所実施100%
	廃棄物リサイクル率の向上 混合廃棄物の排出量の低減	96.8%	全社 97.6% 土木工事 99.5% 建築工事 96.0%	97.6%
	作業所ゼロエミッション活動の推進 土木工事 工事価格 2億円以上全作業所 建築工事 工事価格 4億円以上全作業所 実施率 100%	土木工事 2億以上の全作業所 建築工事 4億以上の全作業所 実施率100%	土木工事 70作業所対象 70作業所実施 建築工事 87作業所対象 87作業所実施 実施率100%	土木工事 2億以上の全作業所 建築工事 4億以上の全作業所 実施率100%
社会貢献活動	広報活動の強化 地域・社会貢献活動への取り組み 社会貢献活動データベース登録 （全事業所、作業所）	環境広報活動の強化 地域・社会貢献活動への取り組み	環境報告書のHP上での公開続行 現場見学会の実施 環境報告書配布先 顧客、コンサルタント会社、設計会社、協力会社、社員、環境報告書展示ブースにより一般に配布	環境広報活動の強化 地域・社会貢献活動への取り組み



マテリアルフロー

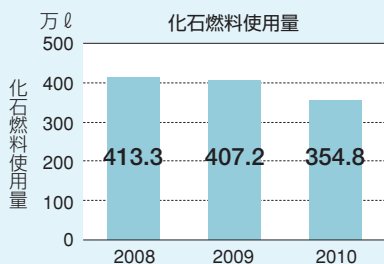
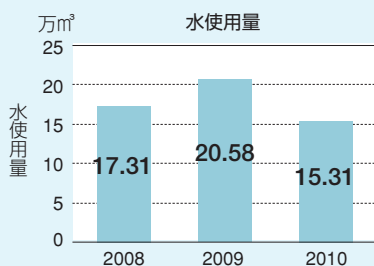
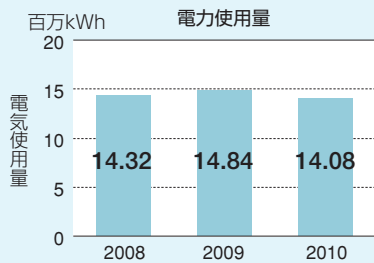
INPUT DATA	
投入エネルギー	
電力	1,408 万kWh
水道	15.3 万m ³
化石燃料	354.8 万ℓ
主要投入資材	
生コン	90.8 万 t (8.4 万t)
鋼材	24.1 万 t (16.6 万t)
碎石	1.6 万 t (1.6 万t)

() はグリーン調達量

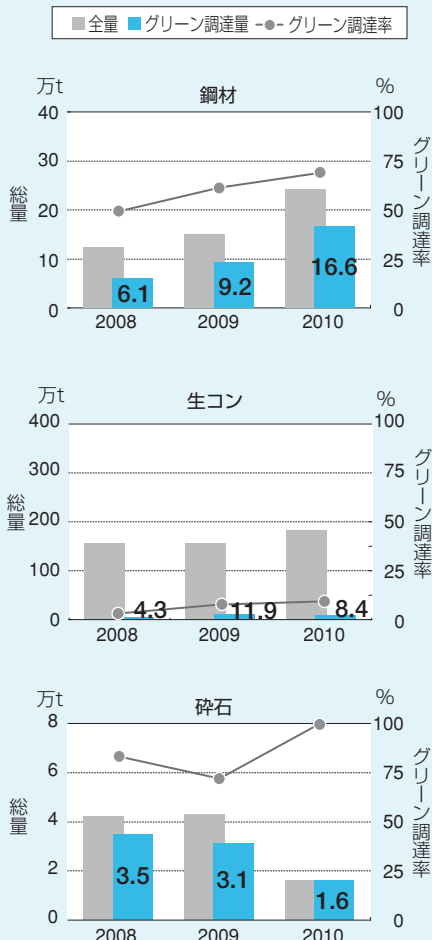


INPUT DATA

投入エネルギー



主要投入資材とグリーン調達



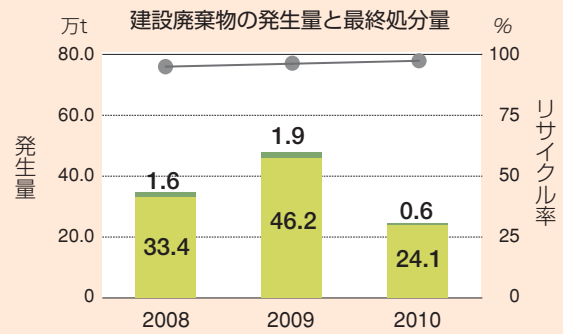
主なグリーン調達品実績

主要資材	総量
形鋼 (電炉)	18,817 t
高炉セメント	40,648 t
透水性舗装	8.85 m ³
再生アスファルト合材	9,023 m ³
スラグ路盤材	1,555 m ³
再生碎石	73,487 m ³
流動化処理土	34,302 m ³
代替型枠 (打込み型枠等)	23,414 m ³
断熱材	66,299 m ²
パーティクルボード	5,411 m ²
木質系セメント板	4,969 m ²
エコクロス	14,516 m ²
石膏ボード	555,298 m ²
岩綿吸音板	59,169 m ²
断熱サッシ・ドア	4,820 枚
ガスヒートポンプ冷暖房機	198 台
LED照明器具	3,335 台
太陽光発電システム	13,981 kW
日射調整フィルム	1,572 m ²
屋上緑化・壁面緑化	5,111 m ²

OUTPUT DATA

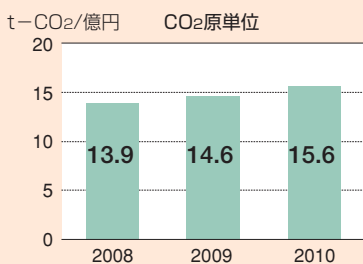
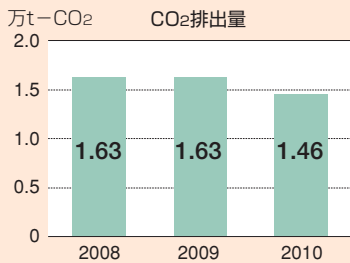
CO ₂	1.46万 t-CO ₂
建設廃棄物	24.7万 t (97.6%)
アスファルト塊	1.5万 t (100.0%)
コンクリート塊	8.7万 t (100.0%)
木くず	7.4万 t (99.3%)
建設汚泥	10.6万 t (97.5%)
混合廃棄物	3.4万 t (85.3%)
その他	2.8万 t
最終処分量	0.6万 t
	() はリサイクル率

OUTPUT DATA



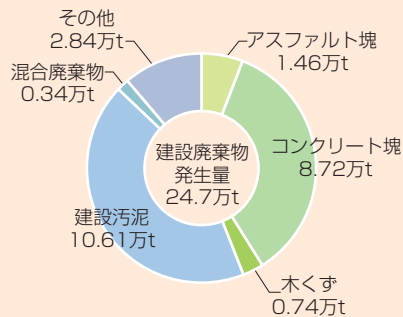
発生量	35.0	48.1	24.7
リサイクル量 (万t)	33.4	46.2	24.1
最終処分量	1.6	1.9	0.6
リサイクル率 (%)	95.3	96.1	97.6
最終処分率 (%)	4.7	3.9	2.4

CO₂

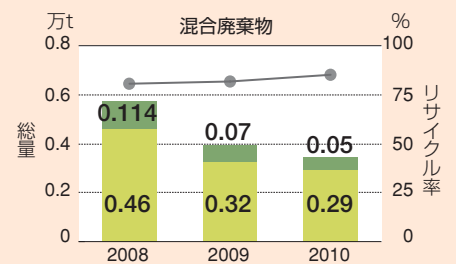
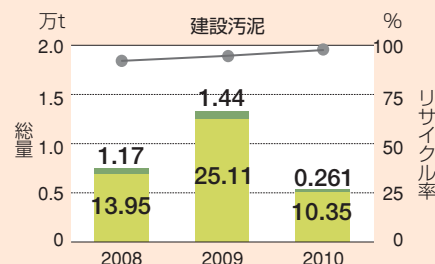
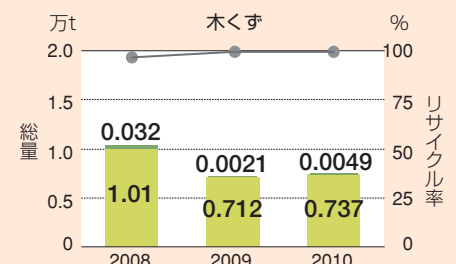
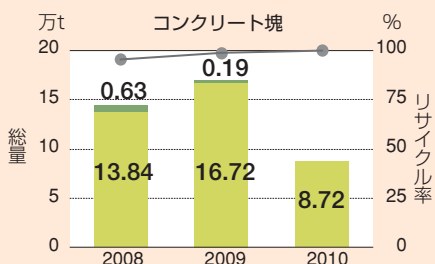
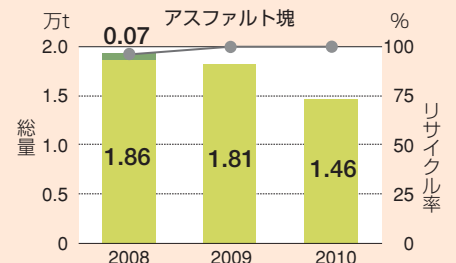


原単位とは、原単位排出量（仕事量）の大小に影響されない基準となる単位「施工高1億円あたり」を採用しています。

建設廃棄物の内訳



■ リサイクル量 ■ 最終処分量 -●- リサイクル率





オフィスにおける取り組み

INPUT	
投入エネルギー	
電力	266 万kWh
水道	1.66 万m ³
化石燃料	0.7 万ℓ
主要投入資材	
コピー用紙	13.8 百万枚



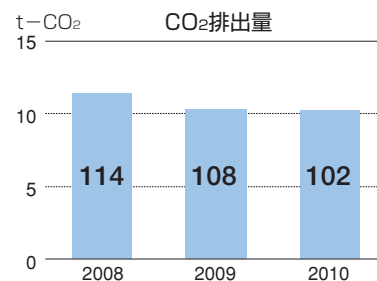
OUTPUT	
CO ₂	102 t-CO ₂
一般廃棄物	
全発生量	138.1 t
再資源化量	94.6 t
リサイクル率	68.5%

CO₂排出量の削減

オフィス部門での取り組みとしては、省エネ法の改正もあり、オフィス活動でのさらなる省エネを進めています。

2010年度の本支社店および営業所等で

のCO₂排出量は、102t-CO₂でした。前年度に実績（108t-CO₂）に比べてやや減少しています。過去3年間の推移を見ますと、徐々に減少傾向にあります。



電気、コピー紙、水使用量の削減

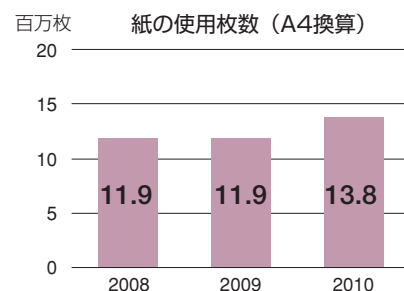
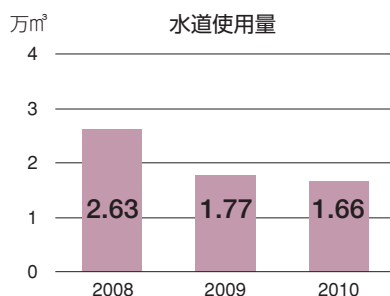
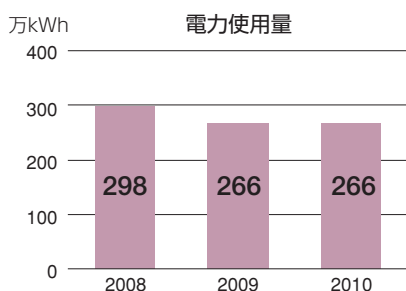
電気については、環境マネジメントシステムの中で、適切な照明の消灯や空調設備の適正な温度管理等により電気使用量の削減を推進しています。2010年度の本支社店および営業所等の電気使用量は、266万kWhでした。前年度の実績（266万kWh）と同等です。過去2年間の推移を見ますと

横ばいの傾向にあり、さらなる削減努力が必要と考えます。

水の使用量については、1.66万m³でした。前年度（1.77万m³）と比較して、やや減少しています。

コピー用紙の使用量については、13.8百万枚で、前年度の実績（11.9百万枚）に比

べ大幅に増加しました。メール発信、社内イントラネット掲示による配布文書の削減、両面コピー・裏面利用の推進を行っていますが、総合評価方式の提案資料作成など紙の使用量が増える傾向にあり、引き続き削減を図っていきます。



2011年度夏期の節電対策

東日本大震災の影響により、電力供給不足による大規模停電の事態を回避するため、政府から7～9月の平日9時から20時の使用最大電力を、2010年度夏のピーク比で15%抑制する「夏期の電力需給対策」が示されたことを受け、東京電力管内および東北電力管内で25%の使用電力削減を目標に掲げ、本支社店、営業所、作業所が一丸と

なって節電に取り組んでいます。

また、社宅・独身寮においても市区町村が行う家庭を対象とした省エネルギー対策に協力する等、家庭での節電も呼びかけています。

これを契機に今後の省エネに対して、ライフスタイルを大幅に見直していくことが重要と考えています。



節電啓蒙ポスターの掲示

環境会計

環境活動を効率良く着実に実行するための有効なツールとして、2003年度から環境会計を導入し、運用しています。

建設業は、企業活動や工事施工中に、騒音・振動の発生、廃棄物・CO₂の排出、水質汚濁など様々な形で環境に影響を与える可能

性があります。これら諸問題に対応した実績値は下表の通りです。今後とも引き続き環境負荷低減に取り組んでいきます。

環境保全コスト

(単位：百万円)

	2008	2009	2010	取り組み内容
1.事業エリア内環境保全コスト	3,457	3,840	3,077	
(1) 公害防止コスト	1,273	1,004	745	作業所の仮設工事費のうち大気汚染・水質汚染防止のためのコスト
(2) 地球環境保全コスト	241	172	383	作業所の仮設工事費のうち地球温暖化防止のためのコスト
(3) 資源循環コスト	1,943	2,664	1,949	作業所におけるアスベスト回収費、汚泥処理費、産業廃棄物処分費
2.上・下流コスト	28	28	28	設計・エンジニアリングにおける環境配慮のための人件費と経費
3.活動管理コスト	354	292	243	環境保全に係わる教育費、騒音・振動測定の経費
4.研究開発コスト	81	90	90	環境関連の研究開発のための人件費と経費
5.社会活動コスト	63	54	52	作業所周辺の美化運動、清掃活動の経費
6.環境損傷対応コスト	16	10	7	自然環境、損害補償の経費
合計	3,999	4,314	3,497	

環境保全効果

		2008	2009	2010
1.作業所建設廃棄物関係				
(1) 廃棄物排出量	(万 t)	35.0	48.1	24.7
(2) 廃棄物のリサイクル量	(万 t)	33.4	46.2	24.1
(3) 最終処分場	(万 t)	1.6	1.9	0.6
(4) リサイクル率	(%)	95.4	96.1	97.6
2.地球温暖化物質、省エネ・省資源				
(1) CO ₂ 排出量	(t・CO ₂ /億円)	13.8	14.6	15.6
(2) 電気使用量	(万kWh)	1,730	1,750	1,674
(3) 水道使用量	(万m ³)	20.0	22.0	17.0
(4) 用紙使用量 (A4換算)	(万枚)	2,352	2,425	2,399

ゼロエミッションへの取り組み

継続工事も含め一定の工事価格（土木工事2億円、建築工事4億円）以上の作業所でゼロエミッション活動を実施しています。

ゼロエミッション活動を開始した作業所は、地域や現場の特性を加味して目標値を定め、その達成を目指しています。

作業所ゼロエミッション目標値は次の項目によって作業所ごとに設定しています。

- ①新設工事における建設廃棄物原単位排出量（汚泥除く施工高1億円当たり）の削減
- ②新設工事における混合廃棄物発生量の低減

③リサイクル率（作業所で発生する全廃棄物量に伴うリサイクル量）の向上

今後も、ゼロエミッション活動方針である4R活動（持ち込まない・削減・再使用・再資源化）を推進し、重点実施事項として分別の徹底と教育の実施を行っていきます。

*ゼロエミッションとは

作業所から排出する建設廃棄物を抑制し、可能な限り分別を行うとともに、リサイクル率を向上させ、最終処分地に排出する建設廃棄物を限りなくゼロにする活動。



分別コンテナ



社会への取り組み

地域社会との良好なコミュニケーションを持つことは建設業の使命であり、地域の方々のご理解なくして工事は成り立ちません。当社では、自然災害時の復旧協力や作業所、支社店周辺の美化運動、地域行事への参加など、様々な活動を通じて地域の皆様との交流を図り、よりよい社会作りのお手伝いをしています。



1. 社会貢献活動 p.29
2. 地域とのコミュニケーション p.31
3. 社会から認められ
求められる企業であるために p.33
4. お客様の満足を得る品質は
安全で衛生的な職場環境から p.35
5. 誰もが自分らしく、いきいきと働くために p.36



社会貢献活動

環境活動 美化運動

東京支社では、東京都千代田区の一斉清掃に参加し、社屋周辺の美化に取り組んでいます。千代田区一斉清掃の日は、毎年6月6日と11月6日に千代田区民と事業者および団体が一体となって行っている啓蒙行動です。この日は東京支社在勤の28名が参加し、千代田区一番町および麹町1丁目付近の清掃を行いました。

大阪支社では、大阪市一斉清掃クリーンおおさか2010に参加しました。クリーンおおさかは、大阪市民と事業者が、ポイ捨てのない清潔で美しいまちづくりに取り組むため大阪市全域で取り組んでいる美化運動です。この日は、大阪支社在勤者4名が近隣の方々と共に大阪本店・大阪支社周辺の清掃を行いました。



「広瀬川一万人プロジェクト」
(東北支店)

東北支店では、社の都・仙台のシンボルである広瀬川の自然環境を守り、多くの市民が親しめる広瀬川とするために春と秋に実施している流域一斉清掃「広瀬川一万人プロジェクト」に社員18名が参加しました。

名古屋支店は、半年に一度、社屋が面する桜通りの清掃をしています。



千代田区一斉清掃 (東京支社)

広島支店は、社屋周辺の掃除を日常的に行っています。

各地の作業所では、周辺のゴミ拾いや河川清掃をはじめ、大雪後の雪かきなど、様々な活動を通じて、地域の皆様のお役に立てるよう活動しています。



クリーンおおさか2010 (大阪支社)



雪かき
(豊田市ゼスタタワー浄水駅前工事)



近隣の公園清掃
(北陸新幹線高岡開ほつ高架橋工事)



見学会



トンネル開通イベント



現場見学



震災ボランティア



美化運動



トンネルウォーク

救命活動 AEDの設置・救命講習の実施

2008年9月、当社は全国7支社店と全国の主な作業所にAEDを設置し、取り扱い講習を全支社店で行っています。

大阪支社では、大阪市西消防署から救命救急士や消防指令補の方々を講師に招いて救命講習を実施しました。講習は、救急時の対処の仕方やAEDの取り扱い、人工呼吸方法など、

実地講習を含んだもので、受講者には救命技能認定証が授与されます。

3月17日に行った救命講習では、大阪支社在勤者17名と作業所勤務者2名の合計19名が受講しました。大阪支社では、今後も定期的に講習を行い、全職員の受講を目指しています。



AEDの取り扱い（大阪支社）

救命活動 人命救助

10月30日夕方、三田線御成門・内幸町間環状第2号線交差部工事（東京都）付近で、自転車に乗っていた男性が突然倒れ、心肺停止状態となりました。倒れるのを目撃した当社社員が応急処置を試みようとしたところに

通りかかった看護師の方と連携し、作業所に設置していたAEDによる蘇生措置を行いました。

この救助活動に対し、東京消防庁芝消防署長より感謝状を授与されました。



感謝状

社会福祉 献血

当社では、社員に参加を呼びかけ献血運動に参加しています。東京支社においては、東京都赤十字血液センターに協力し、年に1度団体献血を行っています。2010年度は、68名が参加し、うち41名が400ml成分献血に、10名が200ml成分献血に協力しました。大阪支社でも30名が協力しました。



献血受付（東京支社）



献血（東京支社）



地域とのコミュニケーション

体験学習 現場見学会の開催

舞鶴若狭自動車道鈴ヶ嶽トンネル工事（福井県）では、トンネルの中を歩くファミリーウォーク大会を実施しました。近隣の鳥羽地区の方々240名が参加し、建設中のトンネルの中を約2時間歩きました。

堺市三宝処理場建設工事（大阪府）では、社団法人土木工業会が主催する100万人の市民現場見学会を実施し、大阪工業技術専門学校教員と学生20名が参加しました。

東九州自動車道赤尾第三トンネル工事（大分県）では、親子と土木のふれあい見学会を実施しました。当日は、約100組の親子が参加し、約1時間半をかけてトンネル内を歩きました。

佐賀497号線行合野橋工事（佐賀県）では、地元子供会とその父兄を招いて「40m上空の空中散歩」と銘打ち、見学会を開催しました。当日は、小学生13名と保護者他23名が参加し、工事説明のあと、施工中の橋長264mを歩きました。参加者は、自分の家を指差したり、「早く通れると良いね」と会話を楽しんでいました。



ファミリーウォーク
（舞鶴若狭自動車道鈴ヶ嶽トンネル工事）



100万人の市民現場見学会
（堺市三宝処理場工事）



親子と土木のふれあい見学会
（東九州自動車道赤尾第三トンネル工事）



現場見学会
（佐賀497号線行合野橋工事）

地域協力 地域イベントへの参加・協力

北陸新幹線高岡開ほつ高架橋工事（富山県）では、地元自治会の運動会に社員4名が参加し、地域の方々と共に競技を競い合いました。

北陸新幹線小矢部川橋りょう工事（富山県）では、小矢部川漁協と小矢部市が主催する鮎の稚魚放流イベントに参加し、市内の保育園児が稚魚を放流するお手伝いをしました。

北海道新幹線木古内路盤工事（北海道）では、木古内町で行われるみそぎ祭に参加しました。みそぎ祭は天保2（1831）年から続く神事で、厳寒の津軽海峡でご神体を清め、1年の豊漁豊作を祈願する由緒ある祭です。

環状2号線交差部工事（東京都）では、工事範囲の国道が箱根駅伝や東京マラソンのコースとなるため、ランナーが気持ちよく走れるよう覆工板の段差を無くし、路面の清掃を行いました。東京マラソンでは、3万人以上の市民ランナーが作業所直上の道路を駆け抜けました。



地元自治会運動会
（北陸新幹線高岡開ほつ高架橋工事）



鮎の稚魚放流
（北陸新幹線小矢部川橋りょう工事）



みそぎ祭
（北海道新幹線木古内路盤工事）



東京マラソンのために路面を整備
（環状2号線交差部工事）

国際交流 外国人研修生の受入れ

財団法人大阪国際交流財団を通じて建設を学ぶ海外からの留学生を毎年受け入れています。

2010年度は、インドネシアとモンゴルより各1名の研修生を受け入れました。

約2週間の研修期間中は、大阪支社において建築設計技術および建築施工管理技術の研修を行いました。



銭高社長と記念撮影



設計統轄部での研修

教育支援 地域の大学の教育制度に協力

地域の大学が実施するキャリア教育プログラムに協力しています。

2010年度は桃山学院大学と大阪工業大学のキャリアデザイン教育において、建設業のやり甲斐や業務内容についての講演を行いました。また、桃山学院大学の企業等インタビューを受け入れ、働くことの意義や目的を伝えました。



桃山学院大学での講演



大阪工業大学での講演

復旧支援 東日本大震災 被災地復旧ボランティア活動

被災地の一日も早い復興に向けて、当社では復旧を支援するボランティア活動に積極的に参加しています。これまでに、岩手県上閉伊郡大槌町や宮城県仙台市宮城野区など、津波の被害の大きかった地域を中心に、協力会社の有志の方々と共にながれきの撤去やヘドロの除去などの作業に参加しました。

少しでも被災地された方の力になれるよう、また、被災地の一日も早い復興に向けて、今後もこの活動を継続してまいります。



ボランティア活動



がんばろう！東北



富田 順子
(東北支店)

ボイス 行動を起こす気持ちを復興の力にかえて

災害ボランティア活動に参加し、一般家屋の敷地内のがれきや泥の撤去作業を行いました。

仙台市宮城野区のボランティアセンターとなっている体育館には、全国から集まった多くのボランティアの方々の復興に向けた献身的な姿に清々しい気持ちになりましたが、隣接する体育館には被災者の方が居住されており、改めて大変な状況であることを痛感しました。

依頼者宅をはじめとした地域一帯が、想像を絶する津波被害で別世界と化しており、痛切な思いが込み上げてきました。写真やサッカーボール、生活用品や洋服などが土砂に入り混じり、それらを手取る度に持ち主の方の想いを感じて胸が詰まり、「元に戻せたら」という一心で夢中で作業を続けました。

作業を終えたあと依頼者の方が涙を流され、参加者一同に感謝の言葉をかけて下さったことが心に残っています。「困っている誰かに喜ばれる行動を起こすこと」、「何かしなければ」という一人ひとりの想いが大きな力になることを実感しました。



社会から認められ求められる企業であるために

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス体制

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、「社是」、「経営理念」の基に、顧客満足 の獲得と収益力の強化により企業価値を高めていくという経営方針を実現するために、経営上の組織体制や仕組みを常に点検整備し、必要ある施策をスピーディーに実施し、すべて役職員が高い倫理観に基づいたコンプライアンス経営を実施することです。

すべてのステークホルダーの利益を重視した経営を実践するために、適時適切に企業活動の情報開示を行っています。

取締役会

取締役会は、2011年6月末現在5名で構成し、原則月1回開催するほか、必要に応じて適時開催し、法令に定められた事項や経営に関する重要事項を決定します。なお、経営責任を明確にするために、取締役の任期は1年としています。

監査役会

当社は、監査役制度を採用しています。

監査役会は、2011年6月末現在5名で構成し、うち3名は社外監査役です。監査役は、取締役会やその他の重要会議への出席などを通じ、取締役の職務執行の監査はもとより、広く業務執行の監査を実行しています。

執行役員

2003年6月開催の定時株主総会後の取締役会で、執行役員制度を導入いたしました。2011年6月末現在、27名が選任されており、事業年度ごとの業務執行の成果責任を明確にするために、執行役員の任期は1年としています。

重役会

取締役と執行役員をメンバーとする重役会を設置しています。重役会は、原則月1回開催し、取締役会で決定した経営に関わる重要事項の執行状況を執行役員が報告し、推進・フォロー策を討議しています。

内部統制システムの構築

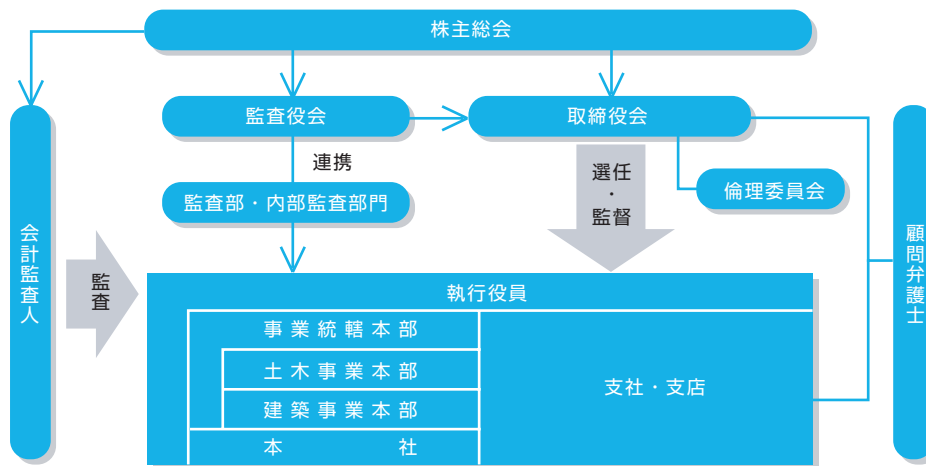
リスクの未然防止や事前対応のための「内部統制に関する基本方針」を定めています。2008年4月より施行された「財務報告に係る内部統制報告制度」への対応を含め、内部統制の強化に向け「すべてを予測可能とし、危機・リスクに対する感知能力の向上を目指した」組織体制の構築ならびに社内風土の醸成に努めています。

内部監査

監査部他の内部監査部門が監査役と連携し、合法性と合理性の観点から、業務の執行、諸制度の運用が適正に実行されているかを検証するために、業務全般にわたる監査を実施しています。

会計監査法人の監査

当社の会計監査業務は監査法人が実施し、当社監査役と適時に監査方法、監査内容に関する意見交換を行っています。



コーポレート・ガバナンス体制

コンプライアンス

コンプライアンスの徹底

当社は、コンプライアンスが企業の社会的責任の基本であり、企業存続の根幹をなすものと認識し、法令違反や不正を防止する社内体制の強化や、役職員の意識向上等、すべての面においてコンプライアンスの徹底を図っています。

行動規範

1994年3月に役職員が日常行動において法令を順守し、建設業の発展に寄与するための行動規範を定めています。

行動規範

1. 建設産業の健全な発展に寄与するため、建設業の構造改善の推進について積極的な取り組みを行う。
2. 企業倫理を確立し、法令に違反する行為を排除し、公正な競争が維持される建設市場の環境整備に努める。
3. 生産性の向上、技術力の練磨、人材の育成等幅広い範囲にわたって不断の経営努力を重ねる。
4. 建設業法や独占禁止法の関係法令の順守に努め、公正な企業活動を行う。

倫理委員会

2002年2月12日に、社会倫理、社会規範、定款、社内規則、規定等に基づいた企業活動の健全性を確保するため、業務執行機関から独立した「倫理委員会」を設け、あらゆる問題について原因を分析し、結果を水平展開して全役職員にコンプライアンスの徹底を図っています。

コンプライアンス研修の実施

2003年4月に「独占禁止法順守に関する業務要領」を制定し、毎年、研修計画を策定して独占禁止法指導者による研修を行っています。

2010年度は全社で14回、延べ561人が受講しました。



コンプライアンス研修

個人情報の適正な管理

個人情報保護の重要性を認識し、個人情報を適切に管理することは、企業の社会的責任と捉え、2005年3月に「個人情報保護方針」および「個人情報保護規定」を制定し、個人情報管理委員会を設置して個人情報を保護しています。

毎年、全役職員を対象にeラーニングによる個人情報保護教育を実施し、ルールの徹底を図っています。

2010年度は、1,593人が受講し、同時に行う理解度テストにより効果を確認しています。

反社会的勢力の排除

当社は、反社会的勢力とは一切の関係をもたず、反社会的勢力から不当要求をされた場合にはこれを拒絶します。

反社会的勢力排除のため、以下の施策を実行しています。

1. 対応統轄部署を総合支援本部総務部に、不当要求に対する総合窓口を各支社店庶務課に設置しています。
2. 「企業が反社会的勢力による被害を防止するための指針」を全役職員に周知徹底し、役職員一人ひとりがコンプライアンスを徹底し、企業価値の向上を図っています。
3. 警察、暴力追放運動推進センター等と緊密な連携関係を構築し、企業防衛協議会等に加入し、暴力団排除活動に参加するとともに、反社会的勢力の情報を収集し活用しています。
4. 反社会的勢力が協力会社となって不当要求や利益を得ることを防止するため、反社会的勢力の経営関与および交際関係があった場合、直ちに契約を解除する旨の専門工事基本契約書を協力会社と締結し、排除の徹底を図っています。

社会貢献活動の推進

社員の積極的な地域、社会貢献活動を推進するため、社内イントラネットに社会貢献活動システムを構築し、2009年度より運用しています。

情報セキュリティ

2005年6月に「電子情報取扱業務要領」を制定し、情報資産を不正なアクセス、コンピュータウィルス、ホームページの改ざん、社外への情報の漏洩、社内ネットワークの長期停止等といった情報セキュリティに係わる脅威から保護し、脆弱性を排除しております。

毎年、全役職員を対象に情報セキュリティ・リテラシー教育をeラーニングで実施し、2010年度は1,313人が受講し、同時に行う理解度テストにて効果を確認しております。



お客様の満足を得る品質は 安全で衛生的な職場環境から

品質への取り組み

品質マネジメントシステム

創業以来培ってきた品質保証活動を礎として、1996年のISO9001認証取得を機に、よりシステムチックに、より迅速にお客様のニーズにお応えできるよう品質マネジメントシステムを構築しています。

価格・品質・スピードにおいて、お客様に満足して頂ける生産システムとするため、営業・設計・工務・調達・施工・アフターフォローに至るまでの全てのプロセスで、日々「リスクの洗い出し」、「計画(P)、実施(D)、評価(C)、改善(A)」を繰り返し、改善・改革・改新を行っています。

チェックアンドフィードバック

作業所による工程内検査、監理者による検査試験、工事部署による品質パトロール、社内検査、マネジメントシステム内部監査など、幾重にもチェックを繰り返し、ミスやトラブルの発生防止に努めています。

2004年より「作業所プロジェクト」制度を立ち上げ、本社や支社店関連部署が作業所をバックアップし、早期の問題発見、問題解決を図っています。

万一、工事中および完成後の建造物でミスやトラブルが生じた場合、「ハブセンター情報」により全社員に伝達し、問題を共有します。担当者による現地確認を行い、迅速に処理を行った後、原因を追究し、その結果をもとに再発防止策を立案します。

さらに、ミストラブル事例集を作成し、社員教育や工事着工前に行う検討会などで水平展開し、再発防止に役立てています。

技術者の育成

システムが出来上がっていても、それを実行するのは社員であり、ビジネスパートナーである協力業者の事業主や作業員の方々です。基礎的技術の講習をはじめ、OJTや集合教育を繰り返し行っています。

建築物の維持・保全

物件の引き渡し後は、契約時に取り交わしたアフターサービスの基準に基づき、定期点検などを実施し、建造物の維持保全を行っています。



基礎的技術講習

安全への取り組み

安全衛生方針

当社は、人間尊重の理念の基に「決めたことを確実に守り実行する安全衛生管理」を安全衛生方針とし、職場で働く全員が自らの安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境を構築して社会からの信頼をより一層高め、企業価値をさらに向上させます。

建設業労働安全衛生マネジメントシステム (COHSMS：コスモス)

本社、大阪支社、東京支社、名古屋支店、東北支店において、建設業労働災害防止協会より2009年3月26日に、支社店と作業所を対象としたコスモス認定の個別認定を受けました。

安全衛生活動の基本である安全衛生管理計画書作成の段階からリスクアセスメントを実施し、支社店、協力会社、作業所が一体となって労働災害の潜在的な危険有害要因をなくするとともに、健康の増進と快適職場作りを実現し、安全・安心な職場環境と安全衛生水準の向上を目指す安全衛生管理活動を行っています。

安全成績

2010年度は、「死亡・重大災害絶滅」を目指しリスクアセスメントを実施し、「墜落・転落災害の防止」「重機・クレーン等災害の防止」「第三者災害の防止」を本社安全衛生重点目標として設定しました。各支社店および作業所単位の安全衛生重点目標は、地域特性、作業環境を踏まえたリスクアセスメントを実施し、安全活動を実施しましたが、2010年度の安全成績は残念ながら目標を達成することはできませんでした。2011年度の重点目標は、「墜落・転落災害の防止」「重機・クレーン等災害の防止」「飛来落下災害の防止」「第三者災害の防止」を本社安全衛生重点目標として設定し、各支社店、作業所のリスクアセスメントを重視した安全活動を強く推進します。

安全衛生教育

年間安全衛生管理計画表に基づき、安全衛生管理技術の向上と継承を目的に安全衛生教育を実施しています。また、支社店および作業所が、自主的な安全衛生活動を推進する目的のコスモス教育と自社、他社災害の真の原因を追究した災害事例等の教育を行い、同種災害発生防止を推進しています。



安全衛生教育

誰もが自分らしく、いきいきと働くために

社員への取り組み

技術者育成プログラム・現場能力向上教育

技術者教育プログラムの一環として、入社5年次、10年次の技術系社員を対象に、現時点における能力レベルと今後の取り組むべき課題を明確にして研修を実施しています。また、若手・中堅社員を対象に、現場能力向上のための教育を実施しています。技術や施工方法はもちろん、教科書では学べない現場の知恵などを伝承することを目的に、現地（作業所）で実地教育を行っています。

職場内教育

新入社員には、先輩社員から選任されたジュニアリーダーが学生から社会人への環境変化や建設業全般の基礎知識習得へのサポートを行っています。また、部署内に指導者を置き、入社3年目までの社員を対象に、日常業務で必要な手順の習得と実践についての指導や、階層別、職種別専門教育を行っています。

仕事と家庭の両立

ワークライフバランス実現に向けた取り組みの一環として、短時間勤務制度や始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ、所定外労働をさせない制度等を織り込んだ、育児・介護休業制度を規則として明文化し、休暇取得を推進しています。

社内FA制度（Zーチャレンジ21）

社員一人ひとりが保有している能力の発揮と、それによる組織の活性化を目的として、社員が希望業務への挑戦をアピールできる制度を設けています。この制度は、登録すれば全ての希望が叶うという訳ではありませんが、登録した人の「熱意」、「やる気」、「努力」が認められれば、希望業務を行う部署への異動が可能です。

セクシュアルハラスメント防止

教育の実施や社内通達等により、セクシュアルハラスメントの防止に努めています。また、職場におけるセクシュアルハラスメントに関する相談・苦情窓口を各支店に設置しています。

メンタルヘルス対策

新入社員、若手社員を対象に、ストレスとメンタルヘルスの基礎知識、その予防や対処法、周囲へのサポート方法などの習得を目的としたメンタルヘルス教育を実施しています。企業として取り組みを強化すべき重要な課題として捉えており、今後は教育の範囲と対象をさらに広げていく予定です。

相互会

社員相互の親睦を図るため、相互会が結成されています。支部ごとの総会（旅行等）、クリスマスパーティーの開催や、クラブ活動などが行われています。

クラブ活動は、体育部（野球、サッカー、テニス、ハンドボール、釣等）と文化部（茶道、写真、囲碁将棋等）があり、市民大会等で優秀な成績を修めているクラブも多数あります。

ビジネス・パートナーへの取り組み

協力会社の活動を支援

当社は、協力会社の経営評価、施工能力評価と計画発注などにより、優秀な協力会社の経営の安定性確保に取り組むと同時に、協力会社が自主的に企画、運営する現場研修会およびVE/CD（バリューエンジニアリング/コストダウン）事例発表会の開催を支援しています。特に事例発表会は、職種の異なる出席者同士の活発な質疑応答がなされ、同じ建設業で働く仲間としてお互いに啓蒙、触発しあう意義のある活動となっています。



VE/CD事例発表会



協力会社研修会

安全衛生推進大会

「見られた現場に隠れた危険 自分で見つけて みんなで即改善」のスローガンのもと、2010年度に優秀な安全衛生活動を推進された協力会社職長等を表彰するとともに、当社と協力会社が一体となり2011年度安全衛生管理目標達成に向け、全員が共通の認識と価値観を持って安全衛生管理を推進し、「危険ゼロ」の快適職場作りに邁進することを新たに誓い合うため、支店店の安全衛生委員会と安全衛生協会共催による安全衛生推進大会を各支店店ごとに開催しています。



安全衛生推進大会



外部表彰

プレストレストコンクリート技術協会 作品賞・土木学会田中賞

当社が施工した奈良・夢翔大橋、沖縄・フルミ大橋、西日本旅客鉄道山陰本線・余部橋りょうの3橋が、プレストレストコンクリート技術協会 作品賞を受賞しました。

この賞は、社団法人プレストレストコンクリート技術協会が主催する賞で、論文部門・作品部門・技術開発部門・施工技術部門からなる権威ある賞です。

余部橋りょうは、土木学会田中賞も受賞しました。土木学会田中賞は、社団法人土木学会が主催するもので、橋梁・鋼構造工学で優れた業績に対して授与されます。



奈良・夢翔大橋



沖縄・フルミ大橋



西日本旅客鉄道 山陰本線余部橋りょう

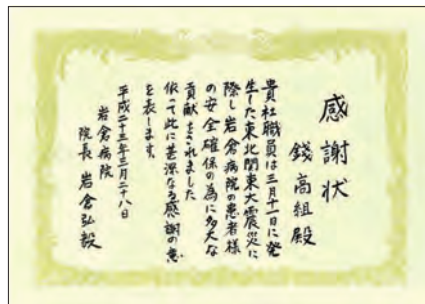
大阪市長より感謝状

大阪市廃棄物の減量推進及び適正処理並びに生活環境の保持に関する条例36条に基づき、大阪府が実施している大阪市環境局の立入調査で、本店および大阪支社は10年間に亘り優良標を受けました。長年にわたるごみ減量の努力が評価され、大阪市長より感謝状を授与されました。



岩倉病院長より感謝状

2011年3月11日、東北太平洋沖地震発生に際し、当社作業所のある岩倉病院の入院患者の避難に貢献したとして、岩倉病院院長より感謝状を授与されました。



環境報告書2011の編集方針と基本要件

1. 編集方針

- 本報告書は、銭高組の事業活動における環境への取り組みと社会活動について報告することにより、当社の事業内容および環境への取り組みについてご理解頂くことを目的としています。
- 前年度の報告書に対する皆様のご意見、ご感想を反映致しました。

2. 基本要件

- 対象組織：銭高組 本店・本社および支社
- 対象期間：2010年度（2010年4月～2011年3月）
（一部2011年度活動を含む）
- 対象分野：環境経営に関する事項および社会的取り組みに関する事項
- 参考にしたガイドライン
環境省「環境報告書ガイドライン（2007年度版）」
および建設3団体「環境会計ガイドライン（2003年版）」
- 次号発行予定：2012年9月

環境報告書2010 アンケート

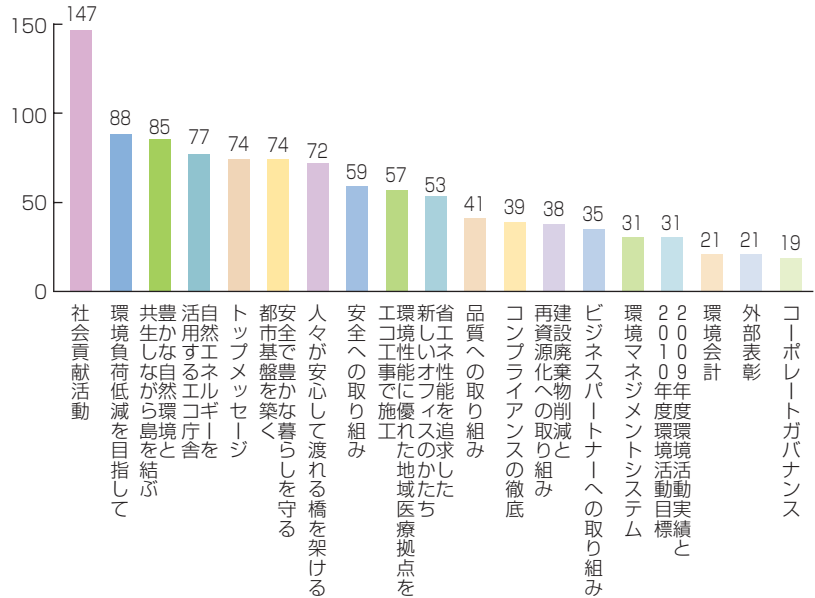
環境報告書2010のアンケートに多くの御回答を頂戴し、まことにありがとうございました。

興味を持たれた記事、良かった点、環境報告書の利用方法などについて頂いたアンケートの一部をご紹介します。皆様から寄せられた貴重なご意見は、本年の環境報告書作成にあたり参考にさせていただきました。

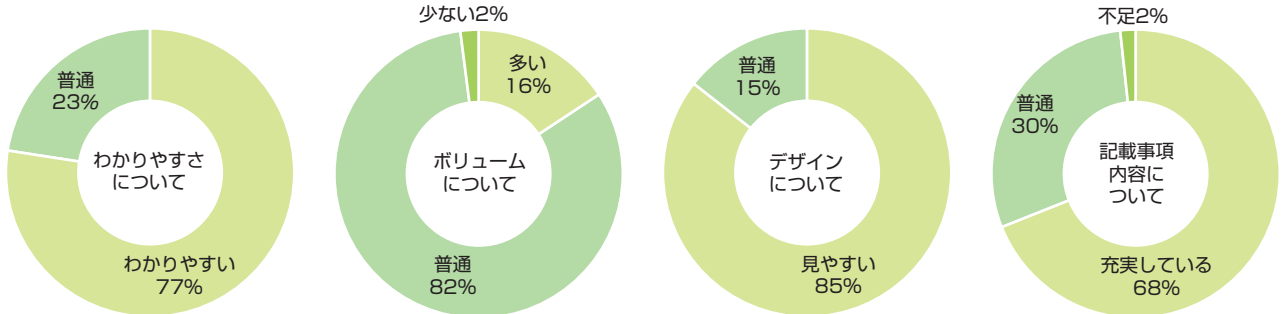
今後の取り組みについて

1. 環境関連法規ほか、法令順守の徹底
2. 社会的貢献活動の強化
3. 社会とのコミュニケーションの強化
4. 全設計案件に環境配慮設計を適用
5. 環境関連技術の開発と展開
6. 全社を挙げての更なる省エネ、省資源化、廃棄物の発生抑制、CO₂排出量の低減

環境報告書2010の中で興味を持たれた記事



環境報告書報告書2010をお読みになった方の感想



会社概要

社名 株式会社 銭高組
 本店所在地 大阪市西区西本町2丁目2番11号
 代表者 社長 銭高一善
 創業 1705年9月18日
 創立 1887年2月1日
 資本金 36.95億円
 純資産 271億円
 売上高 1,279億円
 社員数 1,276名
 事業内容 1. 建設工事の請負、企画、設計および監理
 2. 建設に関する開発事業ならびにこれに関する調査、企画・設計および監理
 3. 不動産取引業
 4. 建設材料の加工および販売
 5. 前各号に附帯する事業ならびにこれに関連する一切の業務
 事業比率 土木41% 建築58% 不動産1%



(2011年3月末現在)



URL <http://www.zenitaka.co.jp/>

本	店	〒550-0005 大阪市西区西本町2丁目2番11号 なにわ筋ツインズ ウエスト	TEL 06-6531-6431
本	社	〒102-8678 東京都千代田区一番町31番地	TEL 03-3265-4611
大	阪	支 社 〒550-0005 大阪市西区西本町2丁目2番11号 なにわ筋ツインズ ウエスト	TEL 06-6531-6431
東	京	支 社 〒102-8678 東京都千代田区一番町31番地	TEL 03-3265-4611
北	海	道 支 店 〒064-8628 札幌市中央区南6条西13丁目1番28号	TEL 011-532-7511
東	北	支 店 〒981-8533 仙台市青葉区柏木1丁目1番7号	TEL 022-234-3431
北	関	東 支 店 〒330-0061 さいたま市浦和区常盤1丁目2番21号	TEL 048-822-5108
千	葉	支 店 〒260-0834 千葉市中央区今井1丁目12番8号	TEL 043-263-8181
横	浜	支 店 〒231-0027 横浜市中区扇町3丁目8番8号 関内ファーストビル	TEL 045-201-9171
北	陸	支 店 〒951-8052 新潟市中央区下大川前通三ノ町2170番地 グランドアームス	TEL 025-224-2171
名	古	屋 支 店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目14番13号	TEL 052-231-7631
神	戸	支 店 〒650-0012 神戸市中央区北長狭通4丁目9番26号 西北神ビル	TEL 078-391-5571
広	島	支 店 〒730-0847 広島市中区舟入南3丁目1番5号	TEL 082-291-3181
四	国	支 店 〒760-0027 高松市紺屋町5番5号 紺屋町ファイブビル	TEL 087-821-5401
九	州	支 店 〒812-0025 福岡市博多区店屋町2番16号	TEL 092-291-3939
国	際	支 店 〒102-8678 東京都千代田区一番町31番地	TEL 03-5210-2349
	海外事務所	マニラ、ハノイ、アフリカ、ジャカルタ	
技	術	研 究 所 〒102-8678 東京都千代田区一番町31番地	TEL 03-5210-2440
技	術	研 究 所 (青 梅) 〒198-0024 東京都青梅市新町9丁目222番地	TEL 0428-31-6858

この報告書に関するお問い合わせ先 銭高組 本社 安全環境部 TEL 03-5210-2324 FAX 03-5210-2325 E-mail eco@zenitaka.co.jp

